

令和元年度北区政策提案協働事業報告書

令和3年1月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	実施事業の概要	
1.	多文化共生キーパーソンの育成と継続可能な仕組み作り	4
2.	外遊び×未来の人育てプロジェクト	19
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	57
2.	事業の評価方法	57
3.	評価項目	57
4.	評価の流れ	57
5.	事業の実施主体による評価	58
6.	選定委員会による評価	61

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の地域課題の解決に向け、新たな視点で提案団体と区が取り組むことのできる事業です。

事業経費のうち区が負担する額は、年間300万円を上限とします。

この事業費は提案団体と区の双方の経費になり、その割合は提案団体と主管課とのヒアリングの際に検討します。

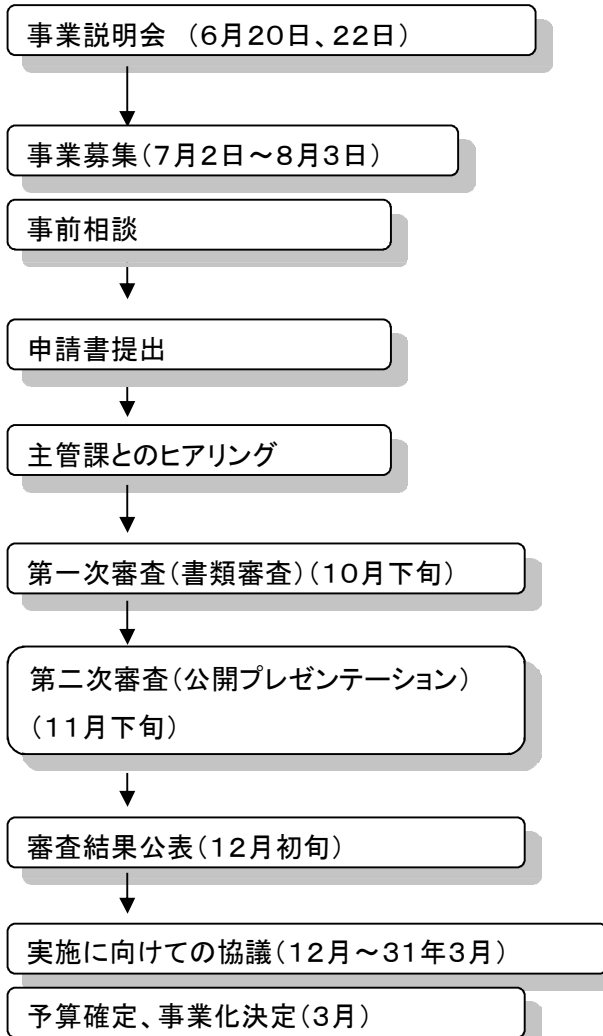
事業を継続する場合の区が負担する事業費については、2年間の事業の場合は計500万円、3年間の事業の場合は計650万円を上限とし、その範囲内で各年度間の区の負担額を決めます。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

平成30年度は、7事業の応募があり3事業が選定され、令和元年度に実施しました。なお、選定された3事業のうち1事業は、平成29年度実施事業と同一事業であるため、今回の報告書には新規2事業のみ掲載しております。

2. 募集事業の流れ

【平成30年度】



【事業説明会(自由参加)／事前相談】

事業概要や提出書類について説明します。

2日で3回実施しました。

また、事前相談では申請書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類(所定の書類)や団体に関する書類(名簿や規則など)を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会を対象事業を審査します。

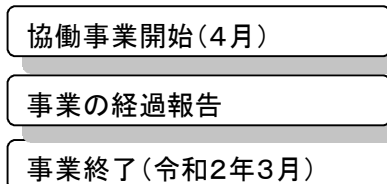
【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、主管課を交えたワークショップ等を行い、具体的な協議を進めていきます。

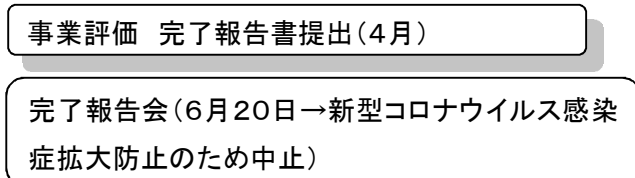
【令和元年度】



【経過報告】

四半期ごとに事業執行状況報告書を提出。

【令和2年度】



【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性等提案団体の特性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることはできるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることはできるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(2) 選定事業

	事業名	団体名
1	多文化共生キーパーソンの育成と 継続可能な仕組み作り (R1年度～R3年度)	特定非営利活動法人彩結び
2	外遊び×未来の人育てプロジェクト (R1年度～R3年度)	北区で子どもの遊ぶ場を作る会

第2章 実施事業の概要

1. 多文化共生キーパーソンの育成と継続可能な仕組み作り

提案団体 特定非営利活動法人彩結び

主管課 総務課

(1) 団体概要

この法人は、広く一般市民を対象として、0歳から100歳まで、誰もが自分らしく、彩り豊かな人生を歩み、協創する社会づくりの実現に貢献し、彩り豊かな人生を歩むために、妨げとなる一人ひとりの課題を解決することを目指し、自分を知り、社会や人と人とのつながりが生まれる場と機会の提供と、そのための施設運営や活動の企画運営を行うことを目的とする。(団体定款より)

(2) 事業目的

北区では外国人住民が増加しており、日本人との言葉の壁から地域で多くの課題が生じている。本事業は、その問題解決のため、「多文化共生キーパーソンの育成・研修の実施（外国人の相談にのることのできる人材の育成）」「育成した多文化共生キーパーソンの派遣事業」「外国人区民への支援を行う区民・団体等の交流会の実施」を行う。

(3) 事業概要

個別事業① 外国人の相談にのることのできる人材（多文化共生キーパーソン育成

個別事業② 研修事業で育成した多文化共生キーパーソンを派遣する

個別事業③ 外国人区民への支援を行う区民・団体等の交流会の実施

→交流会開催のため、PRなどしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。

(4) 役割分担

団体：本事業の具体的な企画、推進、成果まとめ。

主管課：・区の保有している本事業に関する実績や情報等に基づくアドバイス。

・各種広報媒体で、企画の広報や参加や協力呼びかけ

(5) 事業の決算額

区 分	項 目	金 額 (円)
収入	北区負担金	2,332,957
	団体負担金	0
	協賛金	0
	収入計	2,332,957
支出	交通費	88,376
	消耗品費	357,238
	使用賃借料	4,970
	通信運搬費	74,540
	人件費	1,221,960
	行事保険費	1,500
	備品費	418,385
	委託費	50,000
	謝金	110,000
	手数料	1,748
	印刷製本費	4,240
	支出計	2,332,957

～活動報告～

年間の活動

- | | | | | | |
|----|-------|----------------|-----|-------|---------------|
| 5月 | 個別事業① | キーパーソン顔合わせ | 10月 | 個別事業① | 下期キーパーソン研修① |
| 6月 | 個別事業① | 上期キーパーソン研修① | | 個別事業② | 豊島五丁目団地交流会⑤ |
| 7月 | 個別事業① | 上期キーパーソン研修② | | 個別事業② | 西が丘三丁目団地 サロン① |
| | 個別事業② | 豊島五丁目団地交流会①11月 | | 個別事業① | やさしい日本語講座 |
| | 個別事業② | 芝園かけはしプロジェクト視察 | | 個別事業② | 西が丘三丁目団地 サロン② |
| | 個別事業② | とよフェス視察12月 | | 個別事業② | 赤羽南一丁目団地 BBQ |
| 8月 | 個別事業② | 豊島五丁目団地交流会② | | 個別事業② | 西が丘三丁目団地 サロン③ |
| | 個別事業② | 豊島五丁目団地交流会③1月 | | 個別事業② | 西が丘三丁目団地 サロン④ |
| 9月 | 個別事業② | 豊島五丁目団地交流会④2月 | | 個別事業② | 赤羽南一丁目団地 餅つき |
| | 個別事業② | フラット5 視察 | | 個別事業② | 西が丘三丁目団地 サロン⑤ |
| | 個別事業② | 赤羽南一丁目団地 防災訓練 | | | |
| | 個別事業② | 豊島五丁目団地打合せ | | | |

個別事業① キーパーソン育成事業

- ・キーパーソン研修を2回開催し、7名のキーパーソンを育成
個別事業②のキーパーソン派遣事業を開始することが出来た。
- ・キーパーソンは11月の北区主催やさしい日本語講座に参加し、
外国人と接する際の注意点を学ぶことが出来た。



個別事業② キーパーソン派遣事業 豊島五丁目団地自治会

●豊島五丁目団地自治会の状況

世帯数4959世帯、外国人世帯数約500世帯、自治会加入率約50%

外国人の出身国：中国、韓国、ミャンマー、中東、アラブ系の国他。

課題に感じていること：外国人に限らないが、自治会の担い手が高齢化していること。ごみ問題、騒音問題等。外国人の方とコミュニケーションをとるための翻訳化とIT化。

【活動1 多文化共生支援団体の視察】

- ・7/21東洋大学主催とよフェス
(学生×高齢者コミュニティーサロン)
- ・アジア図書館カフェ
(外国人向けの日本語教室)



【活動2 外国人向けガイドブックの作成】

<目的>

外国人入居者に生活する上での有益な情報やマナーを紹介し、お互いに尊重し共同生活を営むきっかけを作るため。

<活動内容>

外国人向けにガイドブックを英・中・韓版で作成した。(参考資料参照)
新規入居の方がいらっしゃるUR事務所にてガイドブックをDLできるQRコードのポップを設置した。



【活動3 自治会申し込み書類の多言語化】

<目的>

外国人の方にスムーズに自治会加入してもらうため。

<活動内容>

自治会加入用紙を英・中・韓訳した。

個別事業② キーパーソン派遣事業 赤羽南一丁目自治会

●赤羽南一丁目自治会の状況

世帯数:268世帯、外国人世帯数:41世帯、自治会加入率50%

外国人の出身国：中国、韓国 半々。英語圏、東南アジア世帯それぞれ1,2世帯。

課題に感じていること：外国の方たちとすれ違うが中々交流のきっかけが持てない。イベントを通じてまずは顔見知りになり心の交流を通して自治会の活動を知ってもらい、興味を持ってもらいたい。

【活動1 各種資料・チラシの多言語化】

<目的>

自治会の活動への理解を促進するため。

<活動内容>

防災セミナー・BBQ・餅つき・AED防災セミナー チラシを英・中・韓訳した。

【活動2 自治会イベントへの参加+交流促進】

<目的>

自治会イベントに積極的に外国人を誘い、交流のきっかけとすること。

自治会への関心を高め加入に繋げること。

<活動内容>

- 9/8(日) 防災セミナー
- 11/2(土)自治会交流BBQイベント
- 2/2(日)餅つきイベント

→イベントに参加したことがきっかけで、自治会への信頼が高まり、新規で加入したかたが早速いました。この活動を続けて外国人だけでなく、若い世代にも自治会の活動に興味を持ってもらう機会としたい。



個別事業② キーパーソン派遣事業 西が丘三丁目団地自治会

●西が丘三丁目団地自治会の状況

世帯数440、外国人世帯数50、自治会加入率ほぼ100%

外国人の出身国：中国、インドネシア、バングラデシュ、モンゴル、ミャンマーなど

課題に感じていること：外国人ママが外にもでず、孤立していること

【活動1 各種資料・チラシの多言語化】

<目的>

自治会の活動への理解を促進するため

<活動内容>

地域のお祭りチラシ・地域の防災チラシ・自治会加入説明書を英・中・韓訳した。

【活動2 日本語サロンなでしこ】

＜目的＞孤立しがちな、外国人ママが外に出て地域の人と交流する機会を提供すること。

＜活動内容＞

●広報

掲示板、自治会長による外国人世帯へのポスティング、声かけ、FBで広報を行った。

●開催 月1回土曜日10時から11時

10/17土4名、11/16土2名、

12/14土4名 1/11土4名、

2/8土6名（付き添いの子供2）

ミャンマー、中国、インドネシア、
バングラデシュ、モンゴルなど



↓交流のため、かるたやなんでもバスケットを行った。
子連れでも参加できるように保育要員やおもちゃを用意



～参考資料～

としまごやうめだんち 豊島五丁目団地ガイド



豊島五丁目団地へ ようこそ!

このガイドはみなさんが豊島五丁目団地で安心して暮らせるように、生活に大切なことをご紹介します。「地震や事故にあった時、どうしたらいいですか?」「自治会って何ですか?」そんなみなさんの疑問にお答えします。みなさんがこれから楽しく日本で過ごせますように!



豊島五丁目団地のHPはこちら
→<https://toshima5.wordpress.com/>



自治会って何ですか?

■自治会って何ですか?
自治会には2つの目的があります。

1. 生活しやすくするため
日本には暮らしや文化のルールがあります。日本での暮らしや生活についてわからないことがあれば、自治会の人に相談できます。また、地震など災害がおきたとき、助けてくれます。

2. 近くに住む人と仲良くなるため
行事やお祭りに参加すれば、たくさん知り合えます。そして、生活も楽しくなります。

■自治会に入りますよ!
かかるお金: 200円/月

6カ月 または 1年分 まとめて お預け します。
(たとえば、3人家族でも、全部で200円/月でいいです)
申し込み方法: 管理事務所で「加入申込書」をもらいます。
申込書を 住んでいる 号棟の 委員長に 渡してください。



豊島五丁目の行事・お祭り・サークル

行事

- 5月 定期総会
- 7~8月 納涼行事 (夏祭り)
- 3月 防災訓練
- 11月 豊島地区大運動会
- 3月 ソフトボール大会



サークル

豊島五丁目自治会にはいろいろなサークルがあります。日本文化が体験できたり、日本人の知り合いができます。ぜひ、ご参加ください!

けんろ会・豊五太鼓・ソフトボール豊五クラブ・座神の会... (詳しく知りたい方は、豊島五丁目団地「暮らしの便利帳」を見て下さい)



暮らしと病院

本区で生活している時に、相談する(聞く)ところ

北区役所
場所/王子本町1-15-22 ☎03-3908-1111 ☒8:30~17:00
JR・地下鉄南北線 王子駅から徒歩 5分

外国人のための相談窓口もあります。英語・中国語で相談できます。

24時間 13:00~16:00 英語 03-3908-1101 (予約制)
24時間 13:00~16:00 中国語 03-3908-1101 (予約制)

行く前に、必ず電話してください。

インターネットで調べるには...

北区役所HP <http://www.city.kita.tokyo.jp/>

(英語・韓国語・中国語・フランス語に翻訳します)



困った時は

病院へ行く

「休みの日」に具合が悪くになったら...
北区休日診療所 王子2-16-11 (北区医師会館2F)

「夜中」に具合が悪くになったら...
東京北医療センター 場所/赤羽台4-17-58

☒24時間、365日 対応しています。

☎03-5963-3311 まず電話してから、

行きましょう!

<診療科目>

小児科・内科・産婦人科・外科

(診察できない場合もあります)



警察を呼ぶ ☎110 (無料) ☒24時間

あなたが危ないと思ったとき(泥棒がものを盗んだとき、事故があったときなど)は、すぐ近くの交番に行ってください。または「☎110」に電話してください。

救急車・消防車を呼ぶ ☎119 (無料) ☒24時間

事故や急な病気で、救急車が必要なときは「☎119」に電話してください。

火事のときも、「☎119」に電話してください。消防車が来ます。

部屋の中で地震から身を守る



日本は地震が多い国です。命を守るために、地震に備えましょう。もし、地震が来たら... まず身の安全を守りましょう。



机の下に隠れる。パソコンや雑誌で頭を守る。



揺れが止まったら、火を止めて玄関と窓を開ける。窓ガラスからは、離れる。

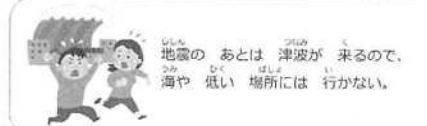


余震(大きい地震の後に来る・火元を確認(ストーブやコンロの火を消す)に注意する。足元を滑らさないように注意する。スリッパや靴をはく。

外にいる時に地震から身を守る



バックや荷物で頭を守る。塀やガラス、看板の近くに行かない。



地震のあとは津波が来るので、海や低い場所には行かない。



揺れが止まったら行動を開始する! 外へ出られるようにドアを開ける。必要な時はすぐ避難する(逃げる)。家族の安全を確認する(連れなかったら、「119」に電話する、伝言を聞いたり、録音することができます。)

地震に 備えよう

http://www.tokyo.or.jp/checklist/checklist.pdf

非常時の持ち出し品・備蓄品 チェックリスト

非常時の持ち出し品・備蓄品
 地震発生時の対応
 地震発生時の対応
 地震発生時の対応

外国語による 医療機関案内

東京都保健医療情報センター ひまわり
 03-5285-8181 毎日午前9時から午後8時まで
 英語、中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、スペイン語で医療機関を案内



北区防災気象メール
 区からの避難勧告（避難するように呼びかけること）や気象庁が発表する天気・地震などの情報をメールで受け取れます。

ntry-kita-city@bousai-mall.jp
 そのままメールを返すと、登録用のURLが書いてあるメールが来ます。それをクリックしたら、登録は完了です。



東京防災本を読んで災害に備えましょう

ゴミの出し方

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミの出し方

英訳のかたはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミの出し方

中訳のかたはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミの出し方

ハン글語のかたはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

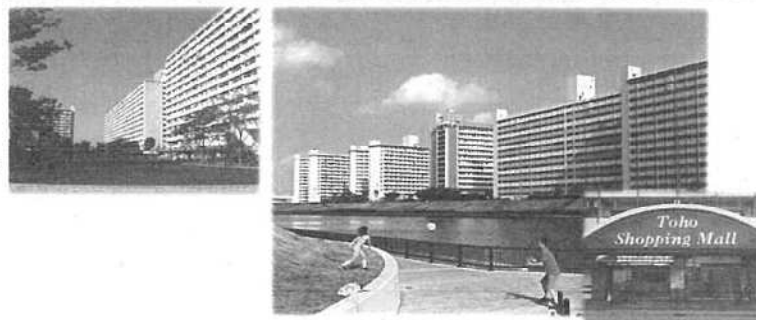
ゴミは分けて決められた曜日に決められた場所に捨てます。詳しくはこちら

音に 注意しましょう

日本の家は隣の家とくっついていて、壁や床が薄いので、大きい音を立てないで生活する習慣があります。足音や物音が響きやすいので、気を付けましょう。

暗くなってから集まる習慣はなく、夜はたいいてい自分の家で過ごします。外の音が即座まで聞こえるので外に集まって遊ぶ時は、大きな音や話し声を出さないでください。夜8時以降はなるべく静かに過ごすようにしましょう。お互いを気遣い、心地よい生活が送れるようにしましょう。

토시마5가 단지 가이드북



Medical institution information in foreign language

Himawari(Tokyo Metropolitan Medical Institution Information Service)
03-5285-8181 Daily 9 am to 8 pm
Information are available in English, Chinese, Korean, North Korean, Thai, Spanish



News is distributed in 17 languages for foreigners.
In case of a disaster such as an earthquake or typhoon,
you can receive important information,
so it is recommended to download the app beforehand.



Read the Tokyo disaster prevention book and prepare for disasters

쓰레기 배출 방법

쓰레기는 분류하여 정해진 요일·장소에 버립니다.
환경을 보호하기 위해서, 쓰레기를 분류하여 버려주세요.
현관 앞이나 계단에는 방치하지 않도록 합니다.

자세한 것은 여기에→



소리에 주의합시다



일본의 가정은畳과 딱 붙어있어, 벽이나 마루가 얇기 때문에 큰 소리가 나지 않게 생활하는 습관이 있습니다.
발소리나 소리가 울려 퍼지기 쉽기 때문에, 조심합니다.



어두워지면, 모이지 않고 밤에는 대부분 자신의 집에서 보냅니다.
밖의 소리가 밤까지 들리기 때문에 밖에 모여서 놀 때는 큰소리나 말소리를 내지 않도록 해주세요.
밤 8시 이후는 되도록 조용하게 시간을 보낼 수 있도록 합니다.
서러 배려하고, 편안한 생활을 하도록 합니다.



Toshima 5 Chome Danchi Guide



Welcome to Toshima 5 Chome Danchi

This guide will introduce you to important factors to live safely in Toshima 5 Chome Danchi (Housing Complex)

What to do in case of [Earth Quake] or an [Accident]
What is Resident Association ?

We will address some issues such as
-What to do in case of Earth Quake or an Accident ?
-What is Resident Association ?

to make your stay safe and comfortable in Japan.

Toshima 5 Chome Danchi Homepage
→<https://toshima5.wordpress.com/>



What is Resident Association

■ What is Resident Association ?

There are two major purposes of the resident association.

1. To make your living comfortable

There are rules for living and being part of the culture in Japan.
If you do not know anything about living or the culture, you can consult with resident association for help and guidance.
Also in case of disaster such as an earth quake occurs, they will help you.

2. To help you get along with the community

Please participate in events and festivals, to get to know people in your neighborhood which will help you to enjoy your living in Japan.

■ Let's join resident association !

Fee : 200 Jpy/month

Please make a lump sum payment for 6 month or 1 year.

(i.e. 3 family member, 200 jpy/month only)

How to apply :

You will receive an "Application Form" at the management office. Please hand the application form to the chair of the building where you live



Events, Festivals and Clubs

♪ Club activities ♪

♪ Events ♪

- May Regular general meeting
- Jul-Aug Summer Event (Summer Festivals)
- Sep Emergency training
- Nov Toshima area Athletic meet
- Mar Softball tournament

There are various club activities in Toshima 5-chome Residents' Association.
You can experience Japanese culture and make friends with Japanese people.
Please join us!

Kenkokai(running), Toyogo Taiko(Japanese drum), Softball Toyogo Club, Zazen (sitting meditation) - (For more information, see the Toshima 5-chome housing complex "Convenience book for living")



Living Support and Hospitals

Where to get support while living in Kita ward.

■ Kita ward office

Location / 1-chôme-15-22 Ôjijhondô ☎03-3908-1111(8:30~17:00)

JR・Subway Namboku Line From Oji staion 5 minute walk

☎Consulting desk for foreigners are also available in English and Chinese)

-English Service

2nd Tuesday of the month 13:00~16:00 ☎03-3908-1101(by appointment)

-Chinese Service

Tuesday 13:00~16:00 ☎03-3908-1101(by appointment)

Please call for an appointment before you visit.



Please check our website on internet
Kita ward office HP <http://www.city.kita.tokyo.jp/>
(English, Korean, Chinese, French, translation is available)



What to do when in trouble

Go to Hospital

If you feel sick on a holiday

- Kita ward holiday clinic 2-16-11 Oji (Kita ward doctor bldg. 2F)

If you feel sick at midnight

- Tokyo Kita Medical Center Address 4-17-58 Akabane dai
- ☑ Open 24Hours, 365 days
- ☎ 03-5963-3311 Please call before you visit!

< Clinics >
 Pediatrics · Internal medicine · OB-GYN · Surgery
 (In certain cases we may not provide medical services)

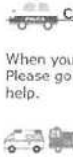


Call the Police ☎110(Free) 24 Hours

When you feel in danger (robbery, accident etc) Please go to a nearby police station or Call ☎110 for help.

Call an ambulance / Fire engine ☎119(Free) 24 Hours

In case of accident or sudden illness, Please call ☎119 for assistance and help.
 Also in case of fire Call ☎119 and fire truck will come to help.



Protect yourself from earthquake (inside home)

Japan is prone to earthquakes. Prepare for earthquake to protect yourself. If an earthquake occurs, protect yourself first.



- Hide under the table. Protect your head with cushions or magazine



- When shaking stops, Turn off all gas stoves, oil heaters, etc, open the door and windows. Stay away from glass windows



- Beware of aftershocks (small earthquakes that come after large earthquakes.)
- Wear slipper or shoe as you may injure your foot

Protect yourself from earthquake (Outside home)

Tsunami will come after the earthquake, so don't go near the sea or low places.

- Protect your head with bag or other article
- Stay away from fences, glass and signboards

Start action when shaking stops!

- Check the source of the fire. Turn off all gas stoves, oil heaters, electric heater and unplug the power outlet, shut off the main electric breaker. Make sure you shutdown everything which may cause fire.
- Open the door so you can easily go out.
- Evacuate immediately (escape) if necessary.
- Contact your family to check they are safe, if you are unable to contact them then call 「171」. You can listen and leave a message for your family.



Prepare for an earthquake

http://www.tokyo.go.jp/eng/checklist/checklist.pdf

Emergency Preparedness Checklist

Let's prepare ourselves in advance for an earthquake, fire, and other disasters. Please prepare according to your environment and needs.

Category	Items
Valuable	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Cash (coins) = ¥10, ¥100 coins for public payphones ☑ Car and home spare key ☑ Spare glasses, contact lenses etc ☑ Bank account number, life insurance policy number etc ☑ Health insurance card ☑ Personal ID (driver's license, passport etc) ☑ Name seal ☑ Mother and child health handbook
Important documents	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Mobile phone (charger etc) ☑ Portable radio (spare batteries) ☑ Family Picture (for confirmation and to tip the family) ☑ Emergency contact info of family, relative, friend ☑ Wide area evacuation map (for Pocket map) ☑ Notebook
Food etc	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Emergency foods ☑ Drinking water
Disaster prevention etc	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Disaster prevention hood or helmet ☑ Flashlight (spare batteries included) ☑ Wrist and elbow (sleeve) or elbow brace (wrist brace etc) ☑ Knife ☑ Disposable body warmer
Point	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Mask ☑ Plastic bag ☑ Aluminum insulation sheet ☑ Blanket ☑ Work or leather gloves ☑ Slipper ☑ Match or lighter ☑ Water bag ☑ Rain gear (rain coat, boots etc) ☑ Rain sheet ☑ Emergency toilet (simple toilet)
Health & hygiene items	<ul style="list-style-type: none"> ☑ First aid kit ☑ Regular, prescription medicator ☑ Towel ☑ Toilet paper ☑ Cotton (including underwear) ☑ Wet tissue
Others	<ul style="list-style-type: none"> ☑ Disposable paper (for infant and elderly) ☑ Feminine hygiene items ☑ Powder milk (for infant) ☑ Other indispensable items required

Medical institution information in foreign language

- **Himawari (Tokyo Metropolitan Medical Institution Information Service)**
 03-5285-8181 Daily 9 am to 8 pm
 Information are available in English, Chinese, Korean, North Korean, Thai, Spanish
- **Kita Ward disaster prevention and weather email service**
 You can receive an email alert from Kita ward evacuation advisories for evacuation and Meteorological Agency announcements such as weather and earthquake information.

Please register to receive alerts.
 Entry: kita-city@bousai-mail.jp

If you return the e-mail as it is, you will receive an e-mail with the URL for registration. Click on it and registration will be completed.




How to put out Garbage


Dispose trash at the designated place on a designated day of the week. To protect our environment, please separate the garbage. Do not leave trash in front of the entrance or on the stairs.

For details →




Let's be careful about sound (noise)

- Japanese houses are attached to the next house, walls and floors are thin, so it is customary to live without making loud noises in Japan. It is easy to hear footsteps and other noises, be careful specially in the night.
- There is no custom of gathering at home after it gets dark, people usually spend the night at their houses. As outside voices can be heard inside the room, do not make loud noises or talk loudly when playing outside
- Let's be as quiet as possible after 8pm.
- Let's care about each other and live a comfortable and peaceful life.



豊島五丁目団地 生活指南



Toho Shopping Mall

可以使用外语的医疗机构信息



・東京都保健医療情報センター ひまわり
03-5285-8181 每天早上9点到下午6点
有英, 中, 韩, 泰, 西班牙语医疗机构指南



这是在外国人遭受灾害的时候, 需求有帮助的nhk世界电视广播的介绍。

程序软件

为了外国人新闻被翻译成17国语言。
地震和台风的时候能知道重要的信息。
下载下来吧。

请阅读东京防灾手册并为各种灾害做准备



扔垃圾的规则

垃圾请在每周指定的日期, 分类后再丢弃。
请分类垃圾以保护环境。
请勿将垃圾放在入口前或楼梯上。

详情请点这里



请注意声音/音量



日本的房屋与邻居房屋相连, 墙壁和地板都非常薄。
所以从小就有不要大声喧哗的生活习惯。
希望大家也注意脚步声等生活上的声音。



天黑后, 没有在一起玩的习惯, 晚上基本都在各自的家里度过。
外面的声音都能在家里听到, 如果在外面玩的时候,
请注意不要大声喧哗。
晚上8点以后请尽量在家里安静的度过。



希望我们大家互相注意, 互相照顾, 彼此都能共创舒适的生活。

为了创建舒适的住宅区
请加入丰岛5丁目团地自治会！

豊島五丁目団地自治会、为了创建舒适的住宅环境，希望您能一起携手合作。远亲不如近邻。

互相帮助

・万一有灾害时，邻里们一起互助

信息

・发送生活必要的信息。

交流

・通过各种地区活动和兴趣活动扩展朋友圈



◆◆加入自治会非常简单！◆◆

请填写以下的入会申请书，再交给您所住的大楼委员。如果委员不在时，交到委员家的信箱即可。

自治会会费是1个月200日元。

(咨询) 自治会副会長 石井利雄

电话/FAX 03 (3927) 0055

() 号楼委员家 ()

电话/FAX __ () ____

=====
切 割 线
=====

入会申込書

豊島五丁目団地自治会 _____ 号楼委员会

_____ 号楼 _____ 号室

姓名 _____

电话 _____

Let's join the Toshima 5-chome
Housing Community Association (HCA)
for create a comfortable resident.

Toshima 5-chome HCA is working for create a comfortable living environment with residents.

Mutual help

・ We can help each other in case of disaster.

Information

・ We send information necessary for life.

Communication

・ The circle of friendship will expand through events and circle activities.



◆◆Easy to join the HCA! ◆◆

Please fill out the application form below and send it to the person in charge of your building. If she is not there, please put it in the entrance post of the person.

The membership fee is 200 yen per month.

(Inquires)

Residents' Association Vice Chairman: 石井利雄(Toshio Ishii)

TEL/FAX:03 (3927) 0055

Chairman of Building No. () , Name ()

TEL/FAX: __ () ____

=====
Cut Line
=====

Membership Application Form

Toshima 5-chome HCA No. _____ building's chairman

Building No. _____ Room No. _____

살기좋은 단지를 만들기위해
토시마5가 단지자치회에 꼭 가입해주시요!

토시마5가 단지자치회는 이웃들이 서로 협력하면서 살기 좋은 단지를 지향하고 활동하고 있습니다.

서로돕기

재해 등 위기상황에 서로 함께 도울 수 있습니다.

정보

생활에 필요한 정보를 보내드립니다.

교류

행사, 시골집등을 통해서 친목관계가 넓어집니다.



◆◆자치회 가입은 간단합니다! ◆◆

하기의 입회신청서를 가입하시고, 살고 계신 건물의 자치회담당자에게 전달해주시요.

만약 부재중인경우, 담당자의 현관 우편함에 넣어주시요. 회비는 1개월 200 엔입니다.

(문의) 자치회부회장 이시이 토시오

전화 / FAX 03 (3927) 0055

() 위원장 ()

전화 / FAX __ ()

=====
절 취 선
=====

가입신청서

토시마5가 단지자치회 _____ 건물 위원장

_____ 건물 _____ 호실

성명 _____

전화번호 _____

すみやすい団地づくりのために
豊島五丁目団地自治会に是非ご入会下さい!

豊島五丁目団地自治会は、ご近所の皆さんが「密」方針いながら暮らしやすい環境を自持して活動しています。

助け合い

災害などもしもの時にお互い助け合えます。

情報

生活に必要な情報をお届けします。

交流

行事やサークル活動を通じて交際の輪が広がります。



◆◆自治会への入会はカンタン! ◆◆

下の入会申込書にご記入いただき、お住まいの号楼役員へお届け下さい。役員が不在の

場合は、その号楼の玄関ポストに入れて下さい。会費は1ヵ月200円です。

(お問い合わせ)

自治会副会長 石井利雄 電話/FAX 03 (3927) 0055

() 号楼委員長 () 電話/FAX __ ()

=====
切 取 線
=====

入会申込書

豊島五丁目団地自治会 _____ 号楼委員長

_____ 号楼 _____ 号室

氏名 _____

電話番号 _____

2. 外遊び×未来の人育てプロジェクト

提案団体 北区で子どもの遊ぶ場をつくる会
主管課 子ども未来課・子どもわくわく課

(1) 団体概要

子どもの育つ環境は厳しさを増しています。

- ・ 知識優先で実体験が不足しがちであること
- ・ 地域の交流が少なくなり、学年単位での遊びに留まっていること
- ・ 子どもの遊ぶ場は、学校の敷地内か家に限定されつつあること
- ・ スマホやゲームなど子どもを惹きつける商品があふれていること
- ・ 大人がケガを恐れるあまり、子ども自らの挑戦ができないこと

私たちは、『子どもが自ら育ち、生まれもった力を引きだす環境を拡げたい、増やしたい』と考えています。

(2) 事業目的

プレーパークに来る親たちから、『公共の場で子どもを怒ってばかり』『他の子の親に謝ってばかり』といった悩みを打ち明けられることが後を絶たない。一方、『プレーパークに出会わなければ、息子は外遊びの楽しさを知らないで育ったかもしれない。母親の私が外遊びの大切さを知らないで育ててしまったかもしれない。』という声も寄せられる。私たちは、プレーパークに来る親の声を聞き、大人の意識が変わることで子どもの育ち方も変わることを学んできた。平成25年の北区次世代育成アンケート調査をみると、小学5年生の放課後の居場所のトップは自宅、次いで塾や習い事となり、遊ぶ相手は同学年、次に1人で遊ぶとの回答だった。平日ゲームをする時間も長く、子どもが外で遊ばないどころか、引きこもってゲームにのめり込む様子が伺える。子どもの意欲やコミュニケーション能力が低下し、自己肯定感の低い若者が増えている背景の一つだと言える。子どもたちは、本当はどう過ごしたいのだろうか？このような現状を改善するために、子育て中の親だけでなく、子どもに関わる大人、ひいては区民全体が、子どもがどうあるべきか、大人はどうふるまうべきかを考えなければならない（本計画書においては、子どもと親・大人がどのように接するのか、対応や声掛け、見守り等における意識やコミュニケーション手法を「子どもとの『関わり方』」と表現する。）私たちは、本事業を通して子どもが自ら育つ環境づくりの重要性を啓発していく。

(3) 事業概要

対象別に、講座や講演会など行う。子どもの育ちの課題がわかりにくいことから、事業全体の概要版パンフレットや、事業実施報告リーフレットを作成し、

啓発に役立てる。

事業1 一般区民向け講演会

多くの方に子どもの育つ現状を知ってもらうために講演会形式で実施する

事業2 乳幼児の親向け講座

仲間づくりも目的とした子育て講座を実施する

事業3 幼児から小学校低学年の親向け講座と体験

学びを実践に落とし込んで理解する講座を実施する

事業4 子どもの放課後に関わる人向けセミナーと実践

現場の悩みの解決方法を話し合い考えるワークショップを実施

事業5 事業概要版パンフレット及び事業報告書リーフレットの作成

(4) 役割分担

団体：講演会、講座、研修の企画・運営、広報（ポスター、チラシ等の作成）

主管課：講演会、講座等のプログラム検討等の協議、会場の早期借用、広報支援（北区ニュースやホームページ掲載）、団体だけでは声掛けしにくい組織へのアプローチ

(5) 事業の決算額

区分	項目	金額(円)
収入	北区負担金	2,609,000
	団体負担金	71
	収入計	2,609,071
支出	謝礼	716,304
	消耗品費	92,557
	印刷製本費	20,890
	通信運搬費	18,080
	保険料	23,650
	使用料賃借料	84,810
	人件費	939,800
	委託料	712,909
	対象経費計	2,609,000
	対象外経費	71
	支出計	2,609,071

(6) 事業の成果や課題

事業1 子どもが育つ環境を考えるための講演会

講演会タイトル

「AI 時代を人間らしく生きる力をどう育むか～遊びの豊かさについて考える～」

(講師：汐見稔幸氏)

開催日 10/14 (月祝) 赤羽会館大ホールにて

1) 講演概要

- ◇ 子どもたちの生活スタイルが変わってきたことによる影響
- ◇ 体験の大事さについて
- ◇ AI 時代は、人間がこれまで行ってきた、身体を使って生活する、工夫する、他者と直接関わって生活するといった行動をしなくても済むようになる
- ◇ これからの子育て、教育では、体を使い、感覚を鍛え、体で覚え、自分で必死に考え、他者と深く多様に関わることが楽しい、という体験をできるだけ増やしていくことが基本。できることは自分たちで、やれる範囲でしようという知性、行動に結びつく知性を育てるべき。AI 時代は、自然のなかで豊かな遊びをいっぱいする子が伸びる時代といえる。
- ◇ 質疑応答、昔の子どもの遊ぶ写真を 10 数枚映して解説。
- ◇ その他
 - ・会場内では、プレーパークの様子や北区で子どもの遊ぶ場を作る会の活動内容のポスターを展示
 - ・赤羽会館小ホールを保育室として使用。2 歳～小学 2 年生までの保育を実施。
 - ・講演会場内後方には、子どもが過ごせるスペースを設置。折り紙やお絵かきなどの遊び道具を置いて子どもが過ごせるようにし、見守りスタッフを配置。
 - ・風鳴舎スタッフによる汐見先生の書籍コーナーを設置



子どもにとって豊かな遊びの
大切さを熱く語る汐見先生



昔の子どもの写真
遊び心に溢れていた



遊び保育の様子 環境を整えばいつだって子どもは遊ぶ

2) 参加者数

表-1 のとおり、当日の参加者合計は、一般申込みに行政関係者及び当会スタッフを合わせて計 179 人だった。アンケートは 92 枚回収した。

なお、一般の申込み 189 人のうち、当日参加者は 139 人と欠席が 69 人だった。

表-1 参加者数など

区分	申込数	当日	アンケート		備考
		参加者数	回収数	割合	
一般申込み	189	139	92	66%	保育 13 名
行政関係者	—	19	—		
当会スタッフ	—	21			
計	189	179			

3) 成果と課題

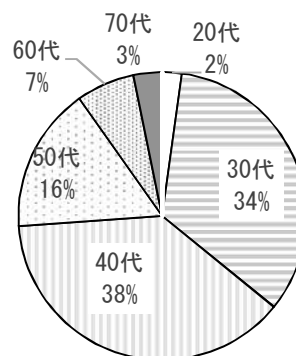
アンケートの結果をもとに成果と課題をまとめた。

①参加者の年代と子の年代

参加者の年代は 40 代が最も多く、次いで 30 代、50 代と子育て世代が中心だった。子の年代は小学生や就学前が多かったが高校生以上も 27% と少なくなかった。

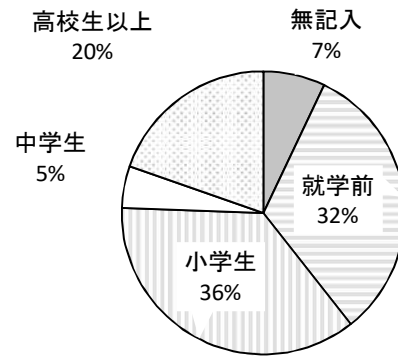
問 あなたの年代は？

選択肢	回答数	割合
10代以下	0	0%
20代	2	2%
30代	31	34%
40代	35	38%
50代	15	16%
60代	6	7%
70代	3	3%
80代以上	0	0%



問 お子さんの年代は？

選択肢	回答数	割合
無記入	9	10%
就学前	41	45%
小学生	46	50%
中学生	6	7%
高校生以上	25	27%



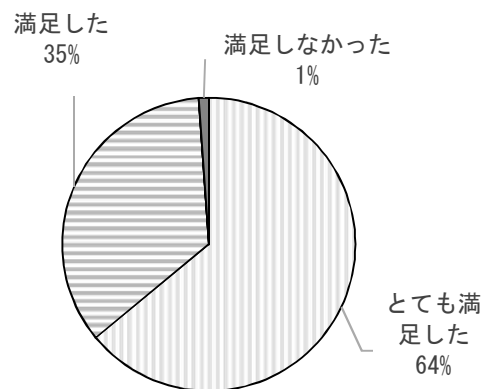
②講演会の満足度

講演会の満足度は、99%が「とても満足した」または「満足した」と回答しており、満足度が高かったことが窺える。「満足しなかった」と回答した1名については、特に記述がなかったために理由は不明。

自由記述から、汐見先生の話の様々な部分で共感した人や感銘を受けた人がいることがわかる。実際にプレーパークに子どもを連れて行ってみよう、保育や子育てで実践してみようという意見も多く見られた。また、室内が寒かったという意見も散見されたので今後の検討事項としたい。継続開催を希望する声やもっと広く開催を周知すべきという声も多く、総合的に参加者から高い評価を得られたと考える。

問 満足度を教えてください

選択肢	回答数	割合
とても満足した	57	62%
満足した	31	34%
あまり満足しなかった	0	0%
満足しなかった	1	1%



開催日は、各地に甚大な被害をもたらした台風19号が通過した翌々日であり、交通機関の麻痺などの心配があったが、無事に開催することができた。一方、申込み受付開始から一週間もしないうちに定員に達し、区内の掲示予定を取りやめ、新たな申し込みも断ったが、台風の影響からか当日欠席が56人と多数だった。今後、申込み方法や欠席対応について検討が必要だ。



講演会の様子 先生のお話になぞく方がたくさんいた

事業2 乳幼児の親向け子育て講座

講座タイトル

「親が困る時は子どもが育つ時」(講師：幾島博子氏)

1) 講座概要

- ◇ ワーク 「親が困る時って、どんな時？どんなこと？」を問う
例) 家の中、友達の家、児童館、公園、スーパー・店、乗り物、道路、その他
- ◇ ワーク 一つの例を取り上げて、3人程度のグループで話し合いシートに書く
- ◇ 各グループの発表
- ◇ 講師からのまとめ



説得力のある幾島先生の話
熱心に聴講するママたち

子どもが自ら行うことは、自ら成長しようとして行っていること。「良い子」の枠に押し込めると、伸びようとする芽を摘むことになる。

どうしたらよいか？

短期ポイント

- ・生命に関わるかどうか？ 危険度によっては力で止める(冷静に)
- ・子どもは何をしたいのか？ よく見る、気づく
- ・やりたいことの気持ちを受けとめる、言葉にしてあげる(言葉の社会化)
- ・周りの状況で出来ない事の枠組みは崩さない。
大人の都合が優先されることもある
- ・やりたいことができる環境へ、工夫をするなどどうしたらよいか？

長期ポイント

- ・子どもはそういうものとあきらめる。走るもの騒ぐもの、台所用具は遊ぶもの
- ・わかっている人とのつながりを作る。
近所、ママ友（カッコつけない、お互い様）
- ・困る場には連れて行かない、困らない場に連れて行く
屋内より屋外の、より自由度の高い、プレーパークなどを選択肢にするといい。

2) 参加者数

表-2 のとおり、3つの会場で計 60 家庭の参加があった。

表-2 参加者数など

開催日	会場	参加人数		アンケート		備考
		家庭数	人数	回収数	割合	
6月27日(木)	東十条東児童館	30	75	24	80%	母 30 人/子ども 45 人
7月2日(火)	十条台子どもセンター	13	26	13	100%	母 13 人/父 1 人/子ども 12 人
7月5日(金)	王子東児童館	17	37	17	100%	母 17 人/子ども 20 人
計		60	138			—

3) 成果と課題

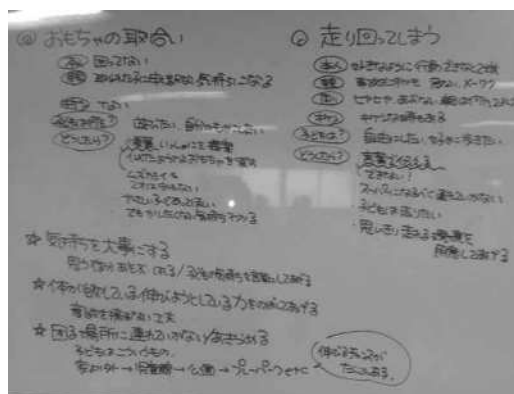
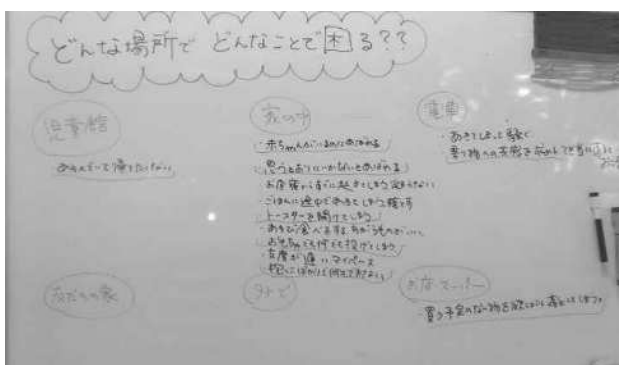
アンケートの結果をもとに成果と課題をまとめた。

3つの会場ともに、講座について「とても満足した・満足した」が9割を超えた。その理由として、「他の人の話がきけた、子どもへの接し方を学べた、困った時の対処法が学べた」が上位だった。やってみようと思ったことに、「子どものやりたいことができる方法を考えてみる、子どもの気持ちを受け止めて言葉にしてみる、子どもが何をしたいのか考えてみる」が多く、積極的な姿勢がみられた。「プレーパークにいてみる」という回答も少なくなかった。実際、講座後にいなりプレーパークに遊びに来ている親子もいる。また、受講前からプレーパークを利用していた方の中には、子どもの育ちと遊びに一層関心を深めた方もいる。

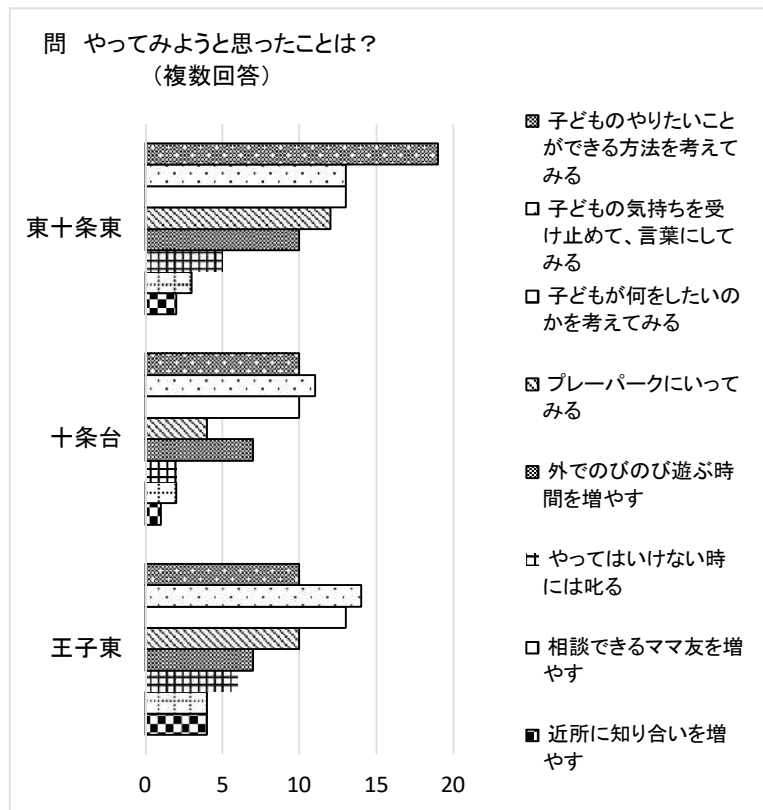
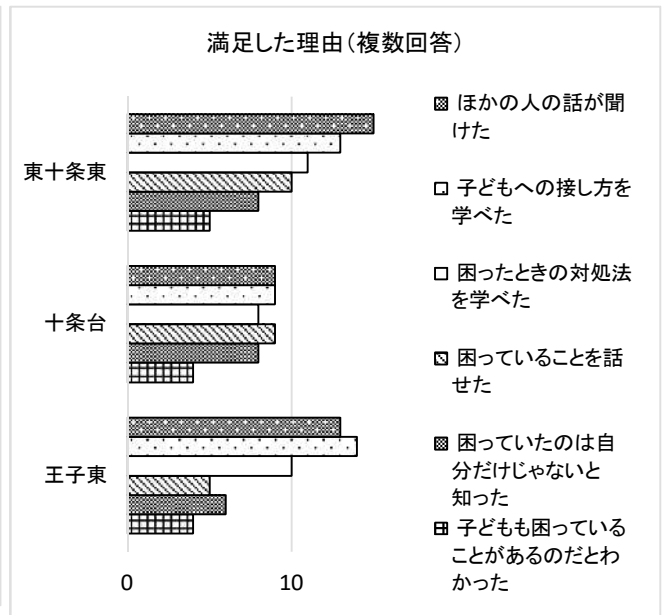
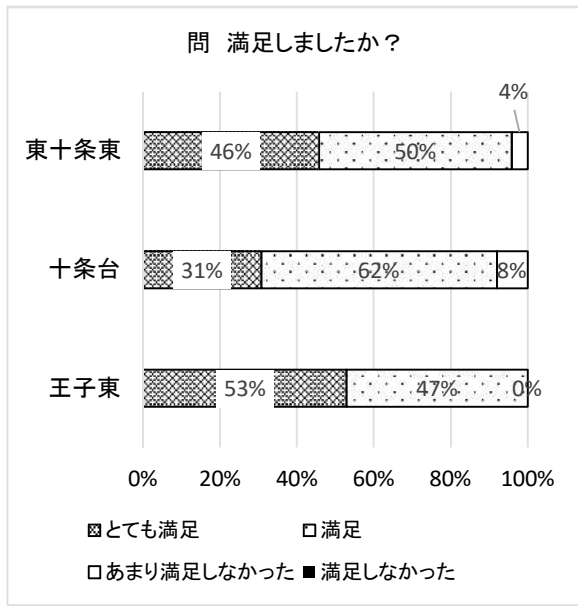
内容的には、多くの母親はおもちゃの取り合いや、順番を待つことを子どもに守らせたいと口にしつつ、実際2歳の子どものがそれを守れるか？と問うと守れないとわかっていた。2歳児が「貸して」と言われて「いいよ」という状態は不自然だと手を挙げた方がたくさんいた。親が2、3歳にムリを求めている

現状があり、その矛盾への気づきが見られた。早い時期から周りの目を気にしてトラブルを避けながらの子育てをすることで、子どもの芽を摘んでしまいかねないこと、乳幼児に早くから我慢させることは主体性を奪うということを伝えられたと思う。

課題として、受講内容を、日常で実践・継続していくことの難しさがある。親が子どもへの接し方に困った時、周りにいる身近な大人が声をかけられる環境があると良い。今回、児童館や子どもセンターを会場にしたことで無理の無い範囲で、職員の方に聴講してもらえた。共に学ぶことで、例えば、『貸して、いいよ、を親同士に言わせる慣習をやめる』ことができるかもしれない。次年度も児童館などの協力が得られるとありがたい。



グループワークで活発な意見交換をする参加者



事業3 幼児から小学校低学年の親向け子育て講座

講座タイトル

「遊びで育つ子どもの力～子育てが楽になる見守りのコツ～」(講師：林希栄子氏)

1) 講座概要

<親向け講座>

◇ 講師紹介

◇ 参加者自己紹介

6人グループになり、事前記入のなまえシールで自己紹介

◇ アイスブレイク「遊び絵地図ワークショップ」

自分の家、周りの地図、何をして遊んでいたかを「遊び絵地図(文字+絵)」記入

グループ内で各自発表 「あるある」共通の遊び、「すごい」印象に残った遊び

◇ 現代の子育て

◇ 現代の子どもたちは…?現代の母親たちは…?

◇ 遊びで育つ子どもの力

主体性、共感性、コミュニケーション力、自己肯定感

◇ 子育て中の「楽しい!」「大変!」

ワークショップ<前半>

子育ての、楽しいこと、大変なことを記入

グループ内で一人ずつ発表→感想、意見、共有

◇ プレイワーカーの遊びの見守りのコツ

子どもの世界を感じる!(遊びのツボ、遊びのキュー)

大人も楽しむ!(準備する、遊びのレンズ、ナナメの関係)

◇ 子育て中の「楽しい!」「大変!」ワークショップ<後半>

子育てが楽になりそうなアイデアを記入

グループ内で一人ずつ発表→感想、意見、共有

◇ まとめ、質疑応答、アンケート記入

<親子で体験>

◇ オリエンテーション 講座のポイント説明

遊ぶ様子をじっくり見る。子どもが自ら選んで、遊びこめるようにサポートする

遊び心を発揮して、大人も楽しんでみる



上段

子どもが遊びで育つ様子を語る講師

下段

グループで語り合う参加者



親子で体験 講座のポイントを聞く様子

「遊びのレンズ」をかけて、おもしろがってみる
 他の参加の親子とも、関わりながら遊んでみる

◇ 遊び体験

あそびを見守る、子どもとあそぶ、大人と対話

◇ 参加者感想共有

◇ まとめ

2) 参加者数

講座は 23 人、体験には 26 人の参加があった。体験は子ども 30 人も参加し、親子で外遊びを楽しんだ。

表-3 参加者数など

開催日	内 容	大人 参加者数	アンケート		備考
			回答数	割合	
11月10日(日)	親向け講座	23	23	100%	保育:15人
11月24日(日)	親子で体験	26	22	85%	子ども:30人 20組(夫婦参加あり)
計		49	-	-	-

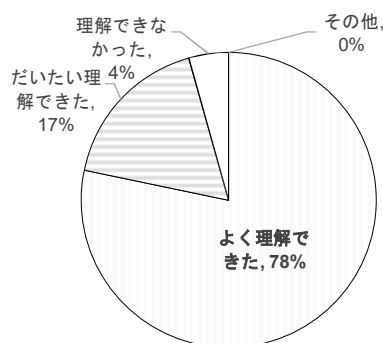
3) 成果と課題

アンケートの結果をもとに成果と課題をまとめた。

親向け講座は、狙い通りの参加者の理解が得られ、高い評価とともに第2回目の「体験」への積極的な参加意欲を得られた。講座は理解しやすく、参考になるものであったことが、8~9割を超える肯定的な回答から確認できた。自由記述からは、「大人の想いと子どものやりたいは異なることを理解した」、「『遊びのメガネ』を試してみたい」といった講座内容の理解に関するもの、「良い講座、理解しやすい、意見交換交流ができてよい」といった講座運営に関するもの、「プレーパークを知った、関心を持った、参加したくなった」といった次の行動につながる意見があった。次の「体験」に向けて、積極的に講座内容を試したいと期待している様子も伺えた。

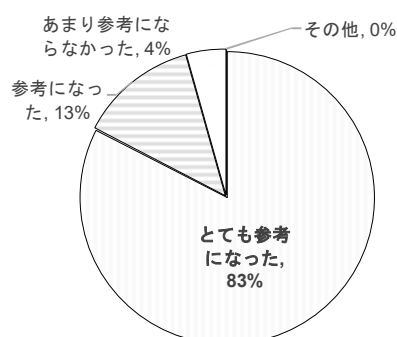
問 講座の理解について

選択肢	回答数	割合
よく理解できた	18	78%
だいたい理解できた	4	17%
理解できなかった	1	4%
その他	0	0%



問 講座の内容は参考になりましたか

選択肢	回答数	割合
とても参考になった	19	83%
参考になった	3	13%
あまり参考にならなかった	1	4%
その他	0	0%



問 次回の体験の日にやってみたいことを教えてください（複数回答可）

選択肢	回答数	割合
子どもと一緒にとことん遊びたい	6	26%
子どもが遊ぶ様子をじっくり観察してみたい	15	65%
他の参加者の親子と関わってみたい	3	13%
普段できない遊びをしてみたい	15	65%
遊び心を発揮して大人も楽しみたい	8	35%
その他	1	4%

親子で体験も参加者から高い評価を得ることができた。更に、「講座」と「体験」により理解・実感を得ることができた参加者が、日常において、学んだことを試していこうとする高い意欲がみられた。

体験・講座は参考になるものであったことが、回答者全員の肯定的な回答から確認できた。その理由としては、「子どもの遊ぶ姿を見守ることができた」「外での遊びでこどもの喜ぶ姿を見られた」「講座で学んだことを試すことができた」「他の大人との関りが大切であることを感じた」といった、講座で学んだ「見

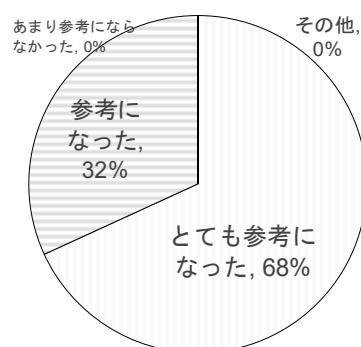
守りのコツ」を体験できたことによる。

「講座」と「体験」の企画について「学んだことを試すことができて良く理解できた」、「いっしょに遊んで子供の目線になれて楽しかった」といった座学だけでは得られにくい理解もみられた。また、「子どもたちをこんなにも自由に遊ばせてあげることがはなかったかもしれない」と体験によって大きな気づきがあった。

プログラムの曜日や時間帯について肯定的な意見も得ることができた。今後の企画については、「講座の回数を増やしてほしい」「プレーパークを増やしてほしい」といった期待する意見もあった。

問 体験の内容は参考になりましたか

選択肢	回答数	割合
とても参考になった	15	68%
参考になった	7	32%
あまり参考にならなかった	0	0%
その他	0	0%



箱を投げる遊びにはじける子をじーと見守る
こんなに遊ぶ子だと思っていなかったという



泥遊びを背後でそっと見守る

事業4 子どもの放課後に関わる人のためのセミナーとワークショップ

講座タイトル

「遊びと育ちを理解した子どもとの関わり方」

(子どもの放課後に関わるスタッフのためのスキルアップセミナー)

(講師：関戸博樹氏)

1) 講座概要

<セミナー>

◇ 自己紹介

◇ アイスブレイク「遊びの思い出を語る」
子どもの頃の遊びの思い出から今の遊び環境の違い、遊び環境の変化を明らかにする。



セミナーの様子

◇ 「そもそも人はなぜ遊ぶのか?」「子どもに関わる大人の役割とは?」

◇ 似顔絵ワーク「遊ぶ」という状態を体感する

◇ 遊びの背景としてある「現代の社会状況やその影響」

環境問題として、禁止看板、苦情、自己肯定感、他人に迷惑をかけない子、等

◇ 遊び場にいる大人の役割「遊ぶ」を支える

◇ 「子どもが遊ぶ」ことを支える Adulteration (遊びの大人化)
寄り添うワーク 邪魔するワーク

◇ こんな時どうする?ワーク Q&A50のテキストを使って 事例3本×8分

◇ 危険管理 リスクとハザードの違いについて

◇ まとめ、質疑応答

<実践>

◇ オリエンテーション セミナーを振り返って

◇ アイスブレイク 「マイセンス」自分の好きな感覚を知る

◇ 実際、子どもに関わってみる

◇ リフレクションとまとめ

2) 参加者数

セミナー31人、実践14人の参加者があった。

表-4 参加者数など

開催日	会場	参加人数	アンケート	
			回収数	割合
9月8日 (日)	セミナー 北とぴあ	31	26	84%
9月23日 (月祝)	実践 いなり プレーパーク	14	10	71%
合計		45	-	-

カテゴリー	9/8セミナー	9/23実践
わくわく☆ひろば	15	6
プレーパーク	5	2
子ども食堂	3	1
児童館	3	1
学童クラブ	1	1
子どもセンター	1	-
学習支援(NPO)	1	1
民間団体	1	1
北区議	1	1
総計	31	14

3) 成果と課題

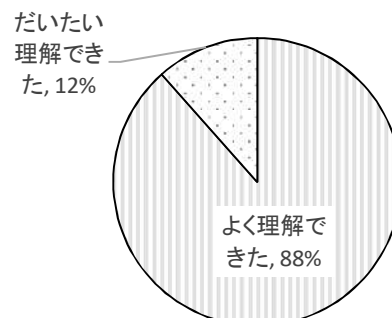
アンケートの結果をもとに成果と課題をまとめた。

セミナーは、「よく理解できた、理解できた」並びに「とても参考になった、参考になった」ともに100%と高評価だった。その理由として、以下があげられる。
 ①少人数でのグループワークで所属の異なる大人との意見交換ができた
 ②一方的に講師の話を聞くのではなく楽しく取り組めるワークで受講者の集中が途切れなかった
 ③“困った子の対応”の話題では否定的なネガティブな雰囲気になりがちだが、子どもの遊びを理解することでポジティブになれた。

後日になるが、セミナーに7人のスタッフが参加した滝三わくわく☆ひろばの職員に、セミナーを受講して現場で役にたっているかと尋ねる機会を得た。職員は、リスクとハザードを見極めながら子どもの遊びを見守るよう、他のスタッフとも共有し始めたという。以前は、子どもの危なっかしく見える行為は早めに止めていたが、今は周囲の環境や状態、その子の体力、能力を考慮しながら、遊びを見守るか声をかけるかを考えるという。

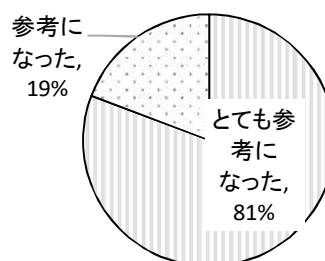
問 セミナーは理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
よく理解できた	23	88%
だいたい理解できた	3	12%
理解できなかった	0	0%



問 あなたの活動の参考になりましたか？

選択肢	回答数	割合
とても参考になった	21	81%
参考になった	5	19%
あまり参考にならなかった	0	0%

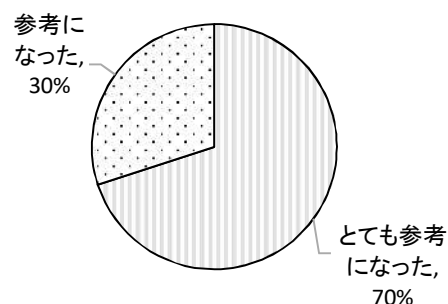


実践のアンケート結果では、セミナー同様に「とても参考になった、参考になった」が100%だった。プレーパークの場で子どもたちが好きなようにやりたいことを、目を輝かせて遊ぶ様子を見てもらったことで、大人のさせたいようにさせてしまう遊びとの違いをしっかりと理解してもらえたと思う。ただ、プレーパークと校庭では、空間が違い過ぎるという指摘や室内での実践も知りたいとの意見もあった。

次年度の日程設定について、アンケートでは日曜で参加できたという意見もあったが、募集時の反応は、日曜や祝日の計2回参加は負担感があるようで応募が非常に少なかった。わくわく☆ひろばや児童館スタッフが多忙になる夏休み前の平日午前を検討したい。常勤、非常勤の立場に関係なく、どのスタッフも参加しやすいよう、わくわくの研修に組み込んでもらえるとうれしい。実践の会場については、プレーパークの現場で雨天対応に苦慮した。学校校庭や体育館を利用できると良い。内容的に、対象者別（新人向け、管理者向け等）やテーマ別（職員を困らす子の対応、ふりかえりの仕方等）についても協議したい。

問 あなたの活動の参考になりましたか？

選択肢	回答数	割合
とても参考になった	7	70%
参考になった	3	30%
あまり参考にならなかった	0	0%



最初はセミナーの内容の復習から



大人も遊んでみないと
楽しさも危なさもわからない



一般のプレーパーク参加者とのびのび過ごす



子どもの無駄？にみえる遊び
この子が将来を生きるためにとても大事

◆アンケート自由記述（一部抜粋）

【事業1 講演会】

問 講演会で印象に残った内容を教えてください

No.7 逆に自然の中で遊ばせるのが大事ということ

No.10 全ての話共感できた。楽しかった道路の遊びが確かにできなくなった。子どもたちの遊び場の大切さ、今の子どもたちの遊び場がないことを改めて気づき何とかせにゃあかん！と思った。都市に田舎を～の空き家活用など私も行動できてないけど考えていたことが一緒に、いつか自給自足ができるような生活が実現できるように私も何かできることがあればしていきたい。

No.11 “LIFE”命、生活、人生。LIFE を豊かにするための遊びは五感を刺激し頭を使うものであること

No.16 先生のお言葉全てですが・・・やはり、身体で処理する、自分で考える、他者と直接関わって生活する3つこそ人間の喜びであり、それを育むために自然の中で豊かな遊びをいっぱいすることが大切だ。ということです。「発達の個性」

No.23 子どもに遊びを与えるのではなく、自ら考え遊びをさせることを大人が率先していくことの重要性を考えさせられました。

No.32 命を輝かせるには遊びを豊かにしてあげ、好きなことを見つけてあげることが親の使命であるということに感銘しました。それと共に私自身も命を輝かせているのであろうか？とも考えさせられました。

No.35 先生のお話はシンプルで力強く、わかりやすかったです。昔のように遊ぶことが難しくなった今の子どもたちは、ではどうしたら生きる力を育むことができるのか・・・親はイロイロ考えていかなければならないな、と思いました。

No.41 生活を豊かにすることが、自分の想像以上に大切であるということだった。群れて遊ぶこ

とは大切だということ。

- No.48 豊かに遊ぶ大切さ。AI 社会において人間らしくいきる大切さ。
- No.51 遊びの大切さを改めて見直すことができました。一人一人の個性を大切にできる社会の必要性についてのお話が印象的でした。自分の考えも改めて変えていく必要性を感じ、楽しい人生を送りたいと思いました。
- No.65 写真とても楽しかったです。遊び大切ですね。道路→児童館→学校になってしまいました。校庭は広いですが、スタッフの方たちが危なくないようにと監視管理をしている場所で、工夫出来る遊びの場所ではありません。学校も都や区へ従うしかなく・・・難しい問題です。
- No.69 人と違う事が良いことだと言う時代になったのだと思いました（以前なら同じことを求めていたと思う）。人は、自然の一部なので自然とダイナミックに遊べることは大切だと思う。好きなことに夢中になれること、五感を使うこと、いまからでも子どもに何かできないかなあと思った。
- No.84 自分の育った時と今の子どもたちの育ち方の違いを感じ、これからの危機感を感じた。仕事の中で、また孫の成長に生かしていきたい。
- No.90 自分の体を使い、考え、工夫することで喜びを味わうことが大切であり、「生活」を楽しむ力を育てることが課題であるということ、という点に感銘を受けました。
- No.91 遊びを考えて、工夫して、自分達なりの世界を作ることの大切さは、既製品のおもちゃが気が利いている現代に思い出すべきことだと思った。

問 感想や気づいたことなど、ご自由にご記入ください

- No.4 ちゃんと遊ばせようと思いました。
- No.9 自ら0～1を生み出す能力を身につけるころの大切さ。その力は、幼い頃の自然体験が大切であること、考える力が大切であること、を学びました。
- No.14 プレーパークに子どもを連れていこうと思いました。
- No.15 自然の中で遊べる機会をつくってあげたい。プレーパークにもぜひ行ってみたいです。
- No.17 知育おもちゃや本を与えすぎていて、自分で工夫して遊ぶということをあまりさせなかったと気がつきました。工夫をさせるような、それが楽しみになるような遊ばせ方を心がけようと思いました。
- No.18 自然を感じる体験を子どもにさせたいと思いました。
- No.22 子どもたちとたくさん外遊びをして、経験をしたいと思いました。
- No.27 未来のAI 社会になっても、子どもに対して、遊びのゆたかさの生活を育てるのは大切なことです。
- No.41 3才と7才になる子どもを育てているが、外遊びがなかなか出来ていなかった。もっと意識的に遊ばせようと思う。下の子の発達が遅めで不安に思うこともあったが、個性として受けとめ、応援していく心構えのようなものをもてたような気がする。お話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

- No.44 本当に納得！勇気づけられました。不便なこと、手作りを大事にしたい。外遊びを子どもと楽しんでいこうと思いました。
- No.51 遊びの重要性は昔から言われてきているが、なかなか大人の考えの中に浸透せず、軽く見られてしまっているように思います。子ども自身も時間に追われ、じっくり遊ぶ時間が取られていないことも問題に思いますが……。子どものあそぶ権利を認めることができる北区になっていってもらえたらと思いました。
- No.55 子どものあそびの充実を考えたい。自分の子どもたち、そして、保育園で働いているので、その子どもたちに対して。
- No.56 区立保育園で働いています。先生は「もしも・・・」という形でお話されましたが、今の子どもたちは既にロケットの中で生まれたに近い環境で過ごしています。しかもそのような子達の親は、その環境こそ子どもにとって最良と考えています。知識はあれど、人と関われない、親の前では良い子だが園生活で問題行動が多い……。以前は珍しかったそんな子が珍しくなくなりました。保育士はその子に、親に、何をしたら良いでしょうか。
- No.68 私は保育士で、0、1、2才児の園にいるが、生活とあそび（実体験）がどれだけ大事か！大切に取らねばならない意味を再認識し、より子ども達の豊かな実体験ができるように考えて日々とりくんでいきたい。
- No.73 そのために、幼児期に体をつかった様々な遊びを十分にとことん満足できるまでやり遂げられる環境を整えることについて、更に工夫していきたいと思いました。このような貴重な機会を与えてくださり感謝申し上げます。これからも子育てのヒントとなる講演会を企画していただきたいです。
- No.74 我が園（保育園）も、天気の日には必ず散歩に出かけ五感を育む保育をしています。これからは先生の言葉に勇気をもらい勉強ばかりでない保育を進めていきたいと思っています。ありがとうございました。
- No.75 五感を使って生活を楽しむことの大切さが身にしみました。
- No.81 子どもの環境とても大切。政治も目を向けてほしいです。
- No.90 子どもの頃に体験させたいことや、育てたい力についてよくわかったのですが、実際にどこで、どんなふうに遊ばせたらいいのか、という具体的なことも提示していただきかったです。
- No.92 2歳半の子を育てる母です。夫婦で拝聴しました。我が子を育てていく上で、情報過多で何が良いのか悩むことも多いなか、汐見先生のお話を伺い、一本の柱が通ったような気がします。あらためて、外遊びや自然体験の大切さ、異年齢遊びの大切さを感じました。幸い我が家の近所にも就学前の幼児が多数住んでいます。公園も近くにありますが、手入れがされておらず、残念ながら子どもたちが集う場所にはなっておりません。区の関係者様への要望として、まちの近所の小さな公園を子ども達や多世代が集う場所として機能するような場所へ整備して頂けることを願います。（ちなみに自宅近くの公園とは、赤羽三和児童遊園です）宜しくお願い致します。

事業2 乳幼児親向け講座

<東十条東児童館 6/27>

- No.2 子どものやりたい気持ちを大切にしなければと改めて思いました
- No.3 おもちゃの取り合いは仕方のないこと、だけど、子どもの気持ちを大切にしようと思いました。我慢を覚えさせるのはもう少し大きくなってからなのでしょうか？
- No.4 ダメダメいうのではなくもっと子どもの気持ちや考えを理解できるようにしてみようと思いました。ありがとうございました。
- * 満足度の理由 No.4 子どもの気持を考えていなかったなと反省できた。
- No.5 子どもは言う事を聞かない、ゆずれない事はわかっているのに、自分の子どもにもとめてしまっていた事に気づいた
- No.6 子どものやりたい意欲や好奇心の芽をつまらずに、安全の中でのびのび遊ばせる環境の工夫をもう少ししようと思いました。
- No.9 子どものことでイライラしたり、困った時は子どもは今何をしたいのかを意識して考えてみたいと思います

<十条台子どもセンター 7/2>

- No.1 子どもの気持ちによりそこそこのゆとりをもてるようにしたいなと思いました
- No.2 下の子を思いきり遊ばせる機会が少ない事に気づきました
- No.4 着替えたくない→眠いの？かな？できる限り早く寝かせてみようと思いました。自分の子どもにはない行動もあり、個性もあるのだと気づいた
- No.5 講座テーマがまさにその通りだということに今日参加して気づきました。姉兄がいる1歳なのでつい見過ごしがちで「いいよ」と許容しがちなのですがしっかり向き合ってあげたいなと思いました。それから長女長男への接し方についても考えるきっかけになりました。
- No.6 子どものやりたいことができる方法を考えることが、改めて大切なことがわかりました
- No.7 つい口癖のように「ダメ」と言ってしまっています。子どもの気持ちを受け止めて言葉にしてみる。これから子どもに対してそのように接していきたいと思いました。
- No.9 同じようなことで困っているお母さんたちと話ができ共感できたことが良かった。やられたら困る（親が）ことを他の形でやらせてあげられるように工夫していきたいと思う
- No.11 日々のことで今日のように分析することは難しいと感じる。講座の間に子どもの見守りスタッフがいたのはとても良かった。参加しやすかった
- * 満足度の理由 No.11 わかっているが日常の中では難しいと感じた
- No.12 悩みを話したり聞いたりできたので、気持ちがすっきりしました。自分の関わり方を少し変えてみたいと思います。

<王子東児童館 7/5>

- No.1 子供の気持ちをちゃんと分かってあげているか不安。まず、子供の気持ちを言葉にするは意識し、クセ付けないとつい忘れてしまいそう。おっとりで人見知り、場所見知り、運動の発達も遅くすごく甘えん坊。個性なのか私の育て方がよくないのか、相談する機会が欲しい。
- No.2 頭ではわかっているけど、いっばいっばというのが正直な気持ちです
- No.3 物を投げてしまうのは自分の子供だけで、何か自分の育て方に問題があるのではないかと不安だったが、他の子もそうだと知って安心できた
- No.4 ダメばかり言うのを少しやめてみる
- No.6 気持ちを受け止め“言葉にする”というのが新しい発見だった
- No.7 他の参加者の話がたくさん聞けて勉強になりました
- No.8 子供がどうしてもそのような行動をとるのかつきつめることをあまりしていなかったのので考え方、対処法など知ることができたので題材にならなかったイヤのことにも活用できると思います。ありがとうございました
- No.9 子供の気持ちに寄り添うこと！！これが（言葉にする）ポイントですね。試してみます
- No.11 子供の気持ちをもっと言葉にしようと思いました。
- No.14 子どもの気持ちをきくことが、時間がないとなかなかできていない。あらためて気付かされます

事業3 幼児～低学年親向け講座

問 感想や気づいたことなど、ご自由にご記入ください

- ・プレーパーク行きます。とっても素敵な場所と時間を提供していただきありがとうございます。
- ・火遊びやノコギリなど危険かなと思えることも、プレーパークでは体験できそうかなと思いました。
- ・火起こしやドロだらけになって遊べる場所を初めて知りました。是非今度子供を連れて行ってみたいと思います。そして遊びのレンズをつけてみようと思います。ありがとうございました。
- ・子どもと遊ぶことが不得意だったので、それを克服できるきっかけになったと思います。
- ・自分が遊ばなれていないことに気づけてよかったです。
- ・プレーパーク、是非行きたいと思いました。

問 講座の内容が参考になった理由を簡単に教えてください。

注：回答箇条書き前の数値(1)(2)は、問1の回答：(1)とても参考、(2)参考を表す

- ・(1)子どもがすごく楽しんで遊んでいたの。“主体的に”遊ぶ大切さを改めて感じました。そのためには環境、おとなの関わり方が大事ですね。
- ・(2)子どもは色々な方とかかわったほうが良い。
- ・(2)子供の遊びを肯定的な目で見られるようになったから。

- ・ (1) 普段はインドアでほとんど外に出ないので、プレーパークで遊んでもらえて良かった。なるべく親は見守って子どもだけで遊べるようになってほしい。
- ・ (1) 体験する場を用意することで、子供の遊びを余裕をもって見守ることができた。
- ・ (1) 実際に子供と泥だらけで遊んだり、注意なしで遊んだことでストレスがなくなりました。最初はのり気でなかった子どもも時間がたつにつれて大はしゃぎでした。
- ・ (1) 私自身が生活のメガネをかけてしまっていることや、他の子の親の目が気になってどうしても止めてしまったり、注意することが多い中で「見守り」ということの大切さを改めて気付くことができた。
- ・ (1) 汚れるのを嫌がっていた娘が徐々に汚れを気にせずにあそぶようになり、遊び方を考え直すきっかけになった。
- ・ (2) 子供がのびのびと遊んでいるようなので参加させてもらって良かったと思っています。また、次回も予定が合うときに来たいと思います。ありがとうございます。
- ・ (1) 子どもたちをこんなにも自由に遊ばせてあげることがなかったかもしれない。兄弟そろってドロ遊びが大好きでごく夢中になってドロドロになっていた。
- ・ (1) 他の子、他の大人と子供が関わるのが少なくなっていると感じました。自分の子に口出ししない、見守ることがコツだと思いました。
- ・ (2) 他の方のお子さんとの接し方を間近に見て、安心することができました。ヒントをもらうこと（親も、童心に帰って、心を開放できるんだ！）もあり、親子で楽しめました。外遊びの笑顔は別物ですね。
- ・ (1) どのように子どもと遊べばよいのかポイントがわかりました。
- ・ (1) 小4と4才の兄妹を連れてきました。妹はもともとのお友達とすぐ遊び始めて「いつものプレーパーク」通りになったのですが、7、8年ぶりに来た兄の行動が面白かったです。何していいやら・・・とぶらぶら所在なげでしたが、いつの間にか居場所を見つけました。来る前に予想していた「帰ろうよー」は一度も出ませんでした。

問 今回の「講座(11/10)」と「体験(本日)」の設定(曜日・時間帯・会場・2回シリーズ)に関しての、ご意見ご感想をお聞かせください。

- ・ 講座では、プレイヤーならではのエピソード沢山で、反省したり感動したり。体験を通して実践できて、子育てって楽しいなと思えました。
- ・ 「体験」のみ参加しましたが、普段できない遊びを沢山できて良かったです。
- ・ 私も子どもも楽しかった。
- ・ 親自身が子供の目線に立って遊びを楽しむことの大切さに気付かされました。
- ・ 子どもを見守るということでものすごく体験できました。講座と体験両方あってよかった。
- ・ 講座で聞いたことを活かそう！と意気込んで来ましたが、いつも通りに楽しく遊んでいます。2回シリーズとして意味ある参加のしかたができたか自信ないですが、とにかく楽しかったです。

問 今後、取り上げてほしい内容や、ご意見ご感想についてお聞かせください。

- ・ プレーパークをもっと広められたら良いなど。のびのび過ごせる場は居心地が良いし、大人も子どもも心身ともに元気で居られると思いました。
- ・ 常設のプレーパーク（土日の良いので）をつくってほしい。田端方面でもプレーパークをやってほしい。
- ・ 子どもがとっても楽しそうでした。ありがとうございました。
- ・ 子育て（年齢年代別）について、日ごろ個人ではできないような遊びをみんなで体験できるような場があるとうれしいです。

事業4 放課後大人向けセミナーと実践

問 今後の研修で要望や希望をご記入ください

- No.1 外国からこられた保育士さんが日本の保育園にきて働いた感想で『子どものやりたいこと、要求をさきまわりしてやってしまいすぎる』と話していたことを思い出しました。子どもがやりたい、楽しいと感じて遊ぶことを保障し、大切にできるアプローチ関係をつくるのが大事ということがわかりました。
- No.6 わくわくの研修の中でとりあげて欲しい。同じ課ですし、スタッフ全員が共有しながら進められればと考えます
- No.10 実習を取り入れた研修を要望いたします
- No.14 今日のようにグループ別の話合いをして頂きたいです
- No.16 今日のワークにあったような、子どもとの関わりをさらに深めるための研修
- No.20 ワークが多いと楽しめるので、今後もこのやり方でやってほしい
- No.21 年に2～3回、研修があれば良いですね
- No.24 グループワークで他の方と意見交換できとても良かったです。また、“脳”と遊びの関わりなど少し専門的で難しいこともわかりやすく教えてください、このような講義がまたあると良いなあと思いました。
- No.26 またこのような子どもの発達に関わる遊びをよりサポートできる参考になる研修をお願いしたい。

問 感想や気づいたことなど、ご自由にご記入ください

- No.1 親になった時、子どもにどう接したらいいのか、とても悩みながら子育てするときに、子どもにとっての遊ぶことの意味を学び理解し、親、大人としてのかかわり方をかんがえられることが大事だと思いました。
- No.5 今まで自分が知らなかった子どもの行動に対しての子どもの理由が知れた。だから、今後の関わりの参考にしていきたい。また、グループワークで他の人の考えをきけたことも良かったです。次回も別の講義があれば受けたい。
- No.8 とても学べたこと『遊び』と『遊ばせる』の違い 大人を喜ばすために遊ぶわけではない。『先生、この大縄終わったら遊んでもいいですか？』寄り添うワークと邪魔するワーク

- No.11 子どもたちにとって、本当の幸せとはなんだろう？一人ずつ 遊びの本質がことなるのではないか？自問自答する
- No.13 子どもに寄り添うこと とても大切だと思いました
- No.14 グループの話合いがとても参考になり、かつ楽しかったです
- No.17 『自分で決めて自分でやる』を見守っている時にリスクとハザードの見極めが、今はどっちだろうととても悩むことがあります。その子自身の能力やその時の周りの環境にもよりますが、子どもがぱっと判断した時には安心し、子どもが悩んでいる時にはどう声をかけたらよいか、判断に迷います。
- No.19 今日はありがとうございました。日々、場面が変わる中で疑問があった部分が、多角的に知られて解消され、勉強になった部分がとても多く感じました
- No.20 色々な人とのワークができて楽しめた。年や職業が違う方々なので意見もいろいろで楽しかった。似顔絵のかきかたが斬新でした。
- No.23 お話をもとに、日々の職場仕事に取り入れて大人から考えを変えていきたいと思いました。ありがとうございました！
- No.24 自分自身の子どもの関わり方が改めて見直す機会となりました。お忙しい中、ありがとうございました。
- No.26 分かりやすくご説明頂きありがとうございました。他の方との関わりがあり、とても楽しく学びをすすめられました

問 実践で参考になった理由

- No.2 座学の時に、こういう場と親の視点は違うと話されていてそう思う時は家と仕事場（保育園）で感じつつも、迷いがありましたが今日、プレーパークで子どもたちと作業したり遊んだり、遊びをながめたりして、振り返りをする事でこういうことの積み重ねなんだなと感じました。
- No.3 大人（自分）はすぐに『あぶない』が先に出るが子どもたち、みんなすきなこと、やりたいことを楽しく目を輝かせて遊んでいた。止めることなく好きなことをする子ども時代を思い出し、止めないってことの必要性大事だと感じました。
- No.5 行為のあとの振り返りは子どもだけでなく、人との関わりの中でみにつけておくと良いと思いました。Play フレームワークの視点を持って子どもに接することを大切だと思いました
- No.6 振り返りのプロセスを教えて頂けてとてもためになりました。ふだんの仕事でも役立てた
- No.7 普段の業務と仕事の意味をどう職員の方たちと共有していくか悩んでいたところでもあったので今回の研修全てが役にたつ研修だと思いました。
- No.9 実際に子どもと関わり、自分の学んだことをためてみたり振り返る機会になりました
- No.10 実際どんな場面でどう関わっていくのかが体験できた

問 今回の設定（曜日・時間帯・2回シリーズ）に関してのご意見ご感想をお聞かせください

- No.2 とても良かったです。お天気もよくなって良かったです
- No.3 休日なので参加しやすかった
- No.5 座学と実践の両方ができて良かった
- No.7 今度はできれば平日シリーズもお願いしたいです
- No.8 1回目に出られた方が2回目にもっとたくさんでられる設定だと良いなと思いました
- No.9 時間もちょうど良かったです。日曜日や祝日のお休みだったので参加することもできました
- No.10 静観することも大切な時間であることを学んだ

問 来年度、研修でとりあげてほしい内容についてお聞かせください

- No.2 思春期のことについて
- No.3 室内遊びも取り上げて欲しい
- No.4 現場の外でやる時、他の方とはあまりコミュニケーションがとれなかったように感じます。かたまって観ている方も何人かいらしたのもっと子どもたちにフランクに話しかけるといいなあと思いました。
- No.5 リフレクションをもう少し詳しく知りたいです。
- No.6 また同じように子どもとの関わり方を教えて頂きたいです
- No.7 同じが望ましいです
- No.9 座学と実学の2回制になっている講習ですとより学びが深まると思ったのでこのような研修があると嬉しいです
- No.10 わくわくひろばの実際のスペースを使った実習



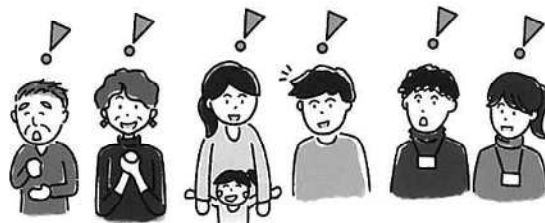
子どもが自ら育つ北区へ！

外遊び×未来の人育てプロジェクト



2019 年度報告

大人の
気づきで



子どもの
育ちが
変わる

このプロジェクトは、
地域の大人、子育て中の親、放課後に関わるスタッフに向けて
「子どもは外遊びから多くを学び成長する」「そのための大人の適切な関わり方」
を伝えるプロジェクトです。

「自ら考え行動できる子ども」「その育ちを信じて見守れる大人」を
北区に増やすことを目指して、2019年度は、
王子地区で講演会やセミナーを実施しました。



子どもたちは、自ら成長する力を持っている！



2019 年度 北区政策提案協働事業

AI時代を人間らしく 生きる力を育む

～遊びの豊かさの大切さについて考える～

10月14日(月・祝) 赤羽堂館4階ホールにて 参加費 179 名

◆講演概要◆

生活スタイルは急激に変わっており、今後さらにAIが生活の隅々まで入りこんでいきます。便利さは進む反面、異体験、工夫と失敗、生活の中での学びなど、子どもが失うものは大きいと考えられます。子どもたちが将来、AI時代を人間らしく生きていくためには、体を使い、感覚を鍛え、自分で死に考え、他者と深く多様にかかわることが楽しい、という体験をできるだけ増やしていくことが基本となります。点数偏差値主義の時代は終わります。できることは自分たちでやろうとする知性や、何かに強い興味をもつ子ども、自然のながで豊かな遊びをいっぱいする子どもが、伸びる時代となります。



熱く語る汐見先生



参加者の気づき

子どもたちの遊び場の大切さ、遊び場がないことに気づき、何とかせよとやあかん!と思った。

ちゃんと遊ばせよう!!

遊びを考えて、工夫して、自分たちなりの世界を作ることの大切さは、現代に思いつくべきことだと思った。

遊びがこんなに大事だなんてびっくり。聞けてよかった(>_<)。

知育おもちゃなどを、与えず置いてました。子どもも自分で工夫して遊ぶこと、それを奨励するように心がけたいと思いました。

社会が大人中心に最適化され、子どもが工夫する機会が失われつつあることに気づいた。



うなづきながら聞く参加者

<報告>

申込み開始から数日で定員がうまり、関心の高さを実感しました。参加者は30代、40代を中心とした子育て世代の参加が多く、熱心に聴講され、あっという間の2時間でした。アンケートの自由記述では、AI時代への急激な変化に不安を感じている保護者が「今、何を大切にすればいいのか」に気づき、子育てでいかにそうとするとコメントがびっしりと書き込まれていました。



親が困る時は 子どもが育つ時

6月27日(木) 第十条児童館にて 保護者 30 名
7月2日(火) 十条子どもセンターにて 保護者 14 名
7月5日(金) 三条児童館にて 保護者 17 名

<報告>

講師が「親が困る時って、どんな時?」と問いかけると、「おもちやの取り合い」「なんでもやりたがる」等、リアルな悩みが次々に出てきました。3人一組での話し合いでは、「こういうことあるよね、わかる!」「私はこうしてる」などと白熱。講師からの「子どもは成長したくて、いろいろなことをやっている」「良い子に育てようとすると、成長を止めていることがある」などの話も、深い気づきにつながったという声が聞かれました。

参加者の気づき



子どものやりたい気持ちも、もっと大切にしなければと思った。

ダメダメ言い過ぎていた。子どもの気持ちを考えていかなければと思った。

まだ「貸して」「いいよ」はできなくてわかってるのに、自分の子どもに求めてしまっていたことに気づいた。

気持ちを受け止め「言葉にする」というのが、新しい発見だった。

「こんな時、どうしてる?」話はずきません



講師 幾島博子氏

特別非営利活動法人
ふれあいの家-おぼちゃん代表理事



遊びで育つ子どもの方 ～子育てが楽になる見守りのコツ～

親向け講座 11月10日(日) 十条市民センターにて 保護者 23 名
親子体験 11月24日(日) 中央公園城ヶ原にて 保護者 26 名

<報告>

親自身の子どもの時代の遊びを語り合うことにより、今の子どもたちの遊びが窮屈であることに気づいていきまし。講師からは「遊びで主体性、共感性、コミュニケーション力などが育つ」「子どもの遊びをもしろがって見守り方が変わる」などの話がありました。プレーパークでの「親子で体験」は、親も童心に戻った遊び、公園で親子の笑い声が響きました。親同士の交流も進み、外遊びを通して子育てが楽しいという実感につながった、という声が聞かれました。

参加者の気づき



親自身が、子どもの目線に立って遊びを楽しむことが大切さに気づかれました。

自分の子に口出ししない、見守ることが大切だと思った。

子どもにも注意することなしで過ごせて、ストレスがなくなりました。子どもは時間がつにつれて大はしゃぎでした。

子どもたちをこんなにも自由に遊ばせることはなかったかもしれない。兄弟そろって夢中になってドロボロになって遊んでいました。



見守り方について学ぶ

親子で楽しめた!プレーパークを初めて知った。また必ず来ます!



講師 林希栄子氏

プレイワーカー・保育士

遊びと育ちを理解した 子どもとの関わり方

講義編 9月8日(日) 北とびあにて スタッフ 31名
実践編 9月16日(月・祝) 中央公園広張部にて スタッフ 14名



講師 関戸博樹氏

特定非営利活動法人
日本冒険遊び場づくり協会代表
プレイワーカー

< 報告 >

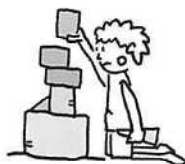
参加者同士で子ども時代の楽しかった遊びについて語りあい、子どもを取り巻く状況(禁止看板・苦情・忙しさなど)を理解することで、子どもが自由に遊ぶことの重要性についての認識が深まりました。テキストや事例を使って「子どもが遊ぶことを支える大人の役割」について、現場のむずかしさを分かち合いながら、検討しました。参加者の半数がわくわく☆ひろばのスタッフで、「自分の活動の参考になった」というコメントが多く寄せられました。特に実践編では、子どもたちが目を輝かせてやりたいことをする様子を観察したり関わってもらうことができ、講義で学んだ「大人のさせたいようにしてしまう遊びと、主体的に遊ぶことの違い」を実感することにつながったという声が聞かれました。



遊んでみることで楽しさも危なさも気づいていく



参加者の気づき



「遊び」と「遊ばせる」
の違いを学べた。

日々の仕事に取り入れて、大人から考えを変えていきたい。

わくわくの研修の中で取り上げてほしい。スタッフ全員が共有しながら進められればと思います。

止められることなく好きなことをした子ども時代を思い出し、止めないってことの必要性に気づいた。

子どもたちがやりたい、楽しいと感じて遊ぶことを保障し、大切にできるアプローチ関係をつくるのが大事ということがわかった。

2019 年度総括

「大人の気づきで、子どもの育ちが変わる」と、対象別に4つの講座・セミナーを開催、大人の気づきを促すことができました。今後大切なのは、気づきをいかした関わりを続けることができるか、になります。北区にはプレーパークという「場」があります。外遊びの大切さに気づいた北区の大人たちが、つながりあい、大切なことを確認しあいながら、子どもを信じて見守れる大人を増やしていくことを目指します。未来を生きる子どもたちのために。2020年度は赤羽地区で実施します。今年度の経験をいかして、より充実した内容を提供いたします。

外遊び × 未来の人育てプロジェクト
2019年度報告リーフレット 発行

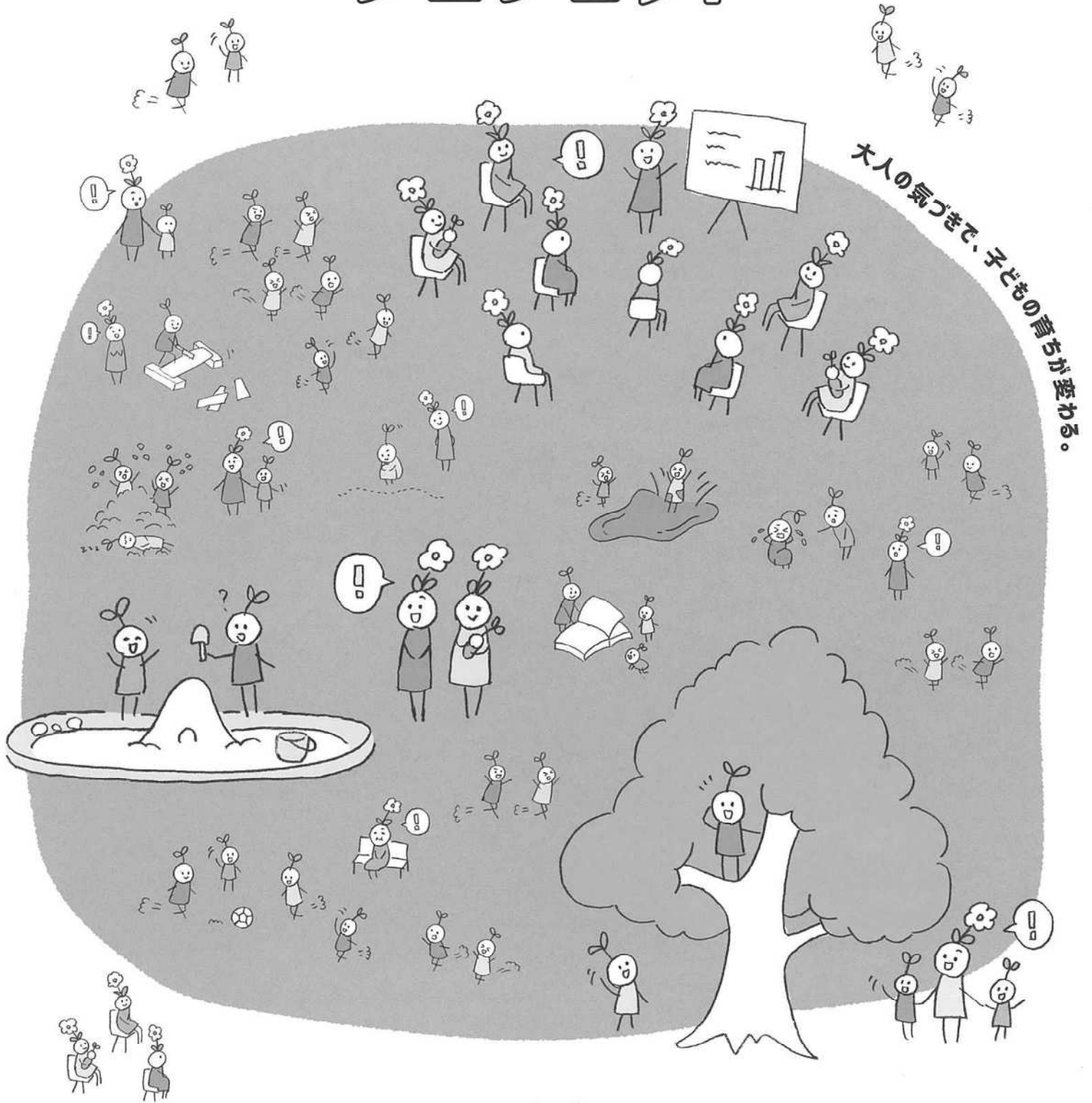
北区で子どもの遊ぶ場をつくる会
当リーフレットに関するお問い合わせは
下記メールアドレス、URL よりご連絡ください。

MAIL ▶ kitaasobo@gmail.com
URL ▶ <https://kita-asobo.jimdofree.com/>

北区教育委員会
子ども未来部子ども未来課・子どもわくわく課



外遊び×未来の人育て プロジェクト



City of Kita

2019年度北区政策提案協働事業

発行

北区で子どもの遊ぶ場をつくる会 北区教育委員会子ども未来部子ども未来課・子どもわくわく課

子どもたちが自ら成長できる北區へ。

子どもは、自ら成長する力を持っています。このプロジェクトは、子どもたちがその力を存分に発揮し、大人は子どもを信じて見守れるようになることを応援します。

子どもたちの周りの状況

1 社会の背景

安全や管理優先
禁止事項の多い公園、大人の管理下の長時間

2 増える電子メディア

子どもをひきつけるゲームや動画により身頃に

3 不寛容な社会

子どもの遊ぶ声や子ども声の騒音とされる

子ども

の状況

- 感情のコントロールが苦手
- いじめ
- 不登校
- 外で遊ばない
- コミュニケーションが苦手
- 自分に自信がない
- いい子すぎる
- 体が不器用
- ゲームに依存

データで見る

放課後は外遊びより習い事
北區の小中学生を対象とした「自由な遊び場を必要とする人」という問いに対して、全体の3割が習い事を選択した。

外で遊ぶ **36.4%** < **60.9%** 習い事
北區の小中学生を対象とした「自由な遊び場を必要とする人」という問いに対して、全体の3割が習い事を選択した。

データで見る

自己肯定感の低下
北區の小中学生を対象とした「自分に自信がない」という問いに対して、全体の3割が自己肯定感の低下を認めた。

どちらかという方ではならない **28.5%** 低い
北區の小中学生を対象とした「自分に自信がない」という問いに対して、全体の3割が自己肯定感の低下を認めた。

その結果

「三間(さんま)を喪失している子ども」

好みに過ごす時間、のびのび遊べる空間、群れて遊ぶ仲間が失われ、子どもが主体的に遊んで通って成長する機会が減っています。

直接支援

やりたいことを見つけ実現できる場所づくり

子どもがやりたいことを探し実現できる場「プレーパーク」を開催し、子どもたちが自分の可能性を広げられる環境を築いています。

やりたいことへ自由に 取り組める場所づくり



写真は横浜へ

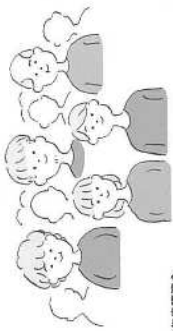
ここはみんなが自由に遊べるから好き!

啓発活動

子どもたちが自ら成長できることの大切さを伝える

子どもの自ら成長する力を知り、大人の関わり方について考え身につける講座やワークショップを対象別に開催します。

子どもに関わる全ての大人向け!



2019年度講演会

特別講演!

AI時代を人間らしく生きる力を育む～遊びの豊かさの大切さについて考える～

今の幼児・小学生たちが社会人になるのは20年後です。この時代は車の自動運転があたり前、人間が苦労してきたことの多くを機械と人工知能(AI)がこなすようになります。AI時代は便利だが進む一方で、理と心を必要に使い、他者と深く関わることが求められる。必要が無くならないという問題が生じます。それが人間の生きる手本となる。問題と向き合い、可能性を探ります。さらに、現場問題など身近な生活のために子どもたちの道にどのような実践をすることが大切なのか、原点に戻って考えてみます。



講師 沙井 敏彦さん

東北大学名誉教授、日本経済大学名誉教授、白根学園大学名誉教授、ほかに、専任は教育学、教育人間学、発達学、教育心理学など。三人の子どもの可能性にかかわって来た経験から父兄の理解を促す活動を行っている。幅広い分野での著書も多数執筆。

0・1・2 歳児の保護者向け!



0・1・2歳であっても、子どもの行動にはその子なりの理由があり、自らの成長につながっていることがたくさんあります。子どもをどう理解し、どう関われば子どもの成長につながるかをお伝えします。

幼児～低学年の保護者向け!



好きな遊びを思いやりやすることで、真力を習得、ストレスを軽減し、好奇心を満たす子どもたち。群れで遊んで、コミュニケーションが、失敗から立ち戻る力、共感力も身につけてます。その際の大人の見守り方を考えます。

子どもの放課後に 関わる方向け!



子どもにとって遊びは生きることそのもの。遊びから子どもの知識を得ます。放課後に関わる大人が子どもをのびのびと遊ばせるために、関わり方や、子どもが主体的に遊ぶを創造する場づくりのスキルを学びます。

啓発活動スケジュール

2019年度



●王子地区で開催。

2020年度



●赤羽地区で開催。範囲を拡大。

2021年度

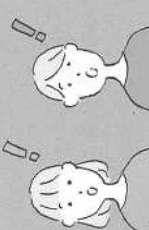


●野洲川地区で開催。北區全域へ。

私たちの目指すこと

自ら考え、行動できる子どもと、子どもの成長する力を信じて見守り、環境を整えることのできる大人を、増やしていきます。

直接支援や啓発活動を
進めていくことによっ...





お外でかまど体験!



お外でのびのびアート遊び!

誰でも、いつでも
おいでよ! プレパーク

穴掘り&秘密基地作り!



年齢制限なしで出入り自由!!



参加費は無料!!

プレパークは、区内3カ所の公園で開催しています。開催場所では、地域の人がプレーリーダーといっしょに子どもたちを見守ります。子どもたちは、水や木や土や火の自然に触れ、やりたいことを思う存分にやることができます。ぼーっとしたい時は、ぼーっとするのも楽しみ方のひとつです。

プレーリーダーとは…子どもに寄り添い、子どもが自分で遊びを創っていくことができる場を整えます。

開催日程は
コチラ! /



webサイト

やってみよう!
子どもの見守り

初級編

- 1, 子どもの興味に気づき「自分でやりたい」という子どもたちの気持ちを追い越さない環境づくりが大切です。
- 2, 頭ごなしの禁止を極力少なくする! 大人の物差しで判断しないようにすることが大切です。
- 3, 子ども同士で放っておく! 喧嘩しても転んでも遠くで見守ることが第一歩です。

北区プレパーク協働事業概要

北区で子どもの遊ぶ場をつくる会は、北区と協働でプレパークを開催しています。

北区プレパークの歩み

- 1997年 地域の保護者が中心になり当会を発足
- 2001年~ 「いなりプレパーク」を開催
- 2005年~ 「桐ヶ丘プレパーク」を開催
- 2009年~ 北区政策提案協働事業に採択
- 2012年~ 「北区プレパーク協働事業」として補助金を受ける (毎年70回前後のプレパークを開催)
- 2018年~ 「豊島放課後ミニプレパーク」開催
北区地域づくり応援団事業「青空アートあそび」開催

**外遊び×未来の育て
プロジェクト**

発行

北区で子どもの遊ぶ場をつくる会

当リーフレットに関するお問い合わせはメールアドレス、URLまたは右記QRコードよりご連絡ください。

MAIL:kitaasobo@gmail.com
URL:https://kita-asobo.jimdofree.com/



Facebook

北区教育委員会

子ども未来部 子ども未来課
子ども未来部 子どもわくわく課



City of Kita

AI時代を 人間らしく生きる力を育む

遊びの豊かさの大切さについて考える



今の幼児・小学生たちが社会人になるのは20年後です。この時代は車の自動運転があたり前で、人間が苦勞してきたことの多くを機械と人工知能（AI）がこなすようになります。

AI時代は便利が進む一方で、頭と心を必死に使い他者と深くかかわってあれこれを実現していく必要が、放っておくと、どんどんなくなっていくという問題が生じます。それが人間の生きる手応えの問題と直結していく可能性があります。さらに、環境問題など解の見つからない問題が次々と登場します。そういう時代を人間らしく生きるためには

『子どもの頃にどのような体験をすることが大切なのか』原点に戻って考えてみます。

2019年

10月14日（月・祝）

13時30分～15時30分（受付13時～）

会場

赤羽会館 4階大ホール

北区赤羽南 1-13-1 JR赤羽駅東口 徒歩5分
地下鉄南北線 赤羽岩淵駅 徒歩10分

対象

子育て中の方、学校教職員、幼稚園・保育園職員、
子ども子育て支援に関わる方、関心のある方

定員

150名（先着順、北区在住在勤者優先）
子ども同伴入場可

保育

2歳～小学2年生 20名（先着順）

申し込み期間

9月1日（日）～9月25日（水）

お申込み方法（裏面参照）

▼申込みQR

QRコード 右の申込みQRより
Eメール kitaku.play+1koen@gmail.com
FAX 03-3907-0357



内容についての問合せ ▶090-1767-9094

（北区で子どもの遊ぶ場をつくる会）

NHK「すくすく子育て」でおなじみ

講師 汐見稔幸氏



プロフィール

東京大学名誉教授・日本保育学会会長・
白梅学園大学名誉学長ほか。専門は教育学、
教育人間学、保育学、育児学と幅広い。
三人の子どもの育児にかかわってきた
体験から父親の育児参加を呼びかけて
いる。各地で講演会を行い、幅広い分野
での著書を多数執筆。

若者の自己肯定感や自主性の低さが指摘されている今、「自由な遊びのなかで子どもは自ら育つ」「子どもの育ちを見守れる大人を増やす」を軸に、さまざまな対象者向けの講義・実践の場を企画しています。2001年からプレーパーク(冒険あそび場)を運営してきた「北区で子どもの遊ぶ場をつくる会」が2018年に政策提案し、採択された3か年の継続プロジェクトです。

2019年度の企画

- ◆ 一般区民向け 汐見稔幸氏(東京大学名誉教授)
「AI時代を人間らしく生きる力を育むー遊びの豊かさの大切さについて考えるー」【10月14日】
- ◆ 0・1・2歳児の親向け 幾島博子氏「親が困る時は、子どもが育つ時」 終了しました 【6月27日、7月2日及び5日】
- ◆ 幼児～低学年の親向け 林希栄子氏「遊びで育つ子どもの力」 【11月10日及び24日】
- ◆ 放課後に関わる大人向け 関戸博樹氏「遊びと育ちを理解した子どもとの関わり方」 【9月8日及び16日】

講演会『AI時代を人間らしく生きる力を育む』申込みシート

申し込み期間 9月1日(日)～9月25日(水)

以下のいずれかの方法によりお申込みください(定員になり次第終了)

■ インターネット

QRコードより
フォームに回答ください



■ メール kitaku.play+1koen@gmail.com

- ①お名前(ふりがな) ②電話番号 ③メールアドレス
- ④北区在勤在住以外の方はその旨
- ⑤保育希望の方は、お子さんの名前(ふりがな)、年齢、性別、アレルギーなど特記事項

をご記入の上、下記宛にご連絡ください

■ FAX 申込みフォーム FAX 03-3907-0357

(北区で子どもの遊ぶ場をつくる会)

お名前(ふりがな)

電話番号

どちらかに をしてください 北区在住在勤 北区外

保育申込み お子さんの名前(ふりがな)・年齢・性別・アレルギーなど特記事項

名前(ふりがな) 年齢 性別 特記事項

名前(ふりがな) 年齢 性別 特記事項

名前(ふりがな) 年齢 性別 特記事項

親が

子どもが

困る時は 育つ時

【会場と日にち】

6月27日（木）11時～12時

東十条東児童館

公共の場で走ったり、人のものを取ったり…
親が困ってしまうことは毎日のことでしょう。
しかし、実はその時こそ子どもが育つ時でもあるのです。
みなさんの「困った」を語り合いながら、いっしょに考えてみませんか？

本事業については、
下記ホームページでもご覧になれます！
「北区で子どもの遊ぶ場をつくる会」

<https://kita-asobo.jimdofree.com>

北区プレーパーク

検索

ホームページ



内容についての問合せ

北区で子どもの遊ぶ場をつくる会

090-1767-9094

2019年度北区政策提案協働事業

【主催】

北区で子どもの遊ぶ場をつくる会

北区教育委員会 子ども未来部 子ども未来課



講師
幾島 博子 氏

NPO法人ふれあいの家-おばちゃんち
代表理事。品川区の児童センター、学童保育、スマイルスクールに34年勤務。
17年前に子育てを軸に誰もが心豊かに暮らせるまちづくりをめざすNPO法人ふれあいの家-おばちゃんち設立に参画。自分自身、子ども時代にとことん遊んだ体験こそが、生きるエネルギーになっていると実感している。二人の娘と三人の孫。
著書に「子どもの放課後にかかわる人のQ & A 50」(学文社)。

子どもの放課後に関わるスタッフのためのスキルアップセミナー



放課後は、子どもたちが遊ぶ時間！

遊びのなかで、子どもたちは、自己肯定感、コミュニケーション力、関係修復力など様々な力を育みます。

では、そのために、

放課後に関わるスタッフは、

どのように子どもたちと関わればよいのでしょうか。

1回目は講義やグループワークで現場の困りごとを共有しながら、2回目は屋外で子どもたちの遊ぶ姿を見ながら、安全管理のポイントや見守り、支援の実践方法を身につけます。わくわく☆ひろば（学童クラブ、放課後子ども教室）や児童館のスタッフにとって、明日からの実践に役立つ内容となっています。

開催概要 連続講座

1回目 セミナー (講義とグループワーク)	9月8日(日) 時間：13時半～15時半 北とびあ 902 会議室 にて
2回目 ワークショップ (屋外にて実践や確認)	9月16日(月・祝) 時間：①11時～13時または ②13時半～15時半 中央公園拡張部(旧いなり公園) ・いなりプレーパーク にて

講師 関戸 博樹 氏

特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 代表
プレイヤーカー

参加費 無料

対象者 わくわく☆ひろば(学童クラブ、放課後子ども教室)や
児童館のスタッフ

定員 30名

お申し込み方法 申込み〆切り：8月23日(金)

お申込みフォーム、Eメール(kitaku.play+4hokago@gmail.com)、FAX(裏面の申込み用紙)、
いずれかにて、氏名・所属・勤務施設名・電話番号を記入してお申込みください。

問合せ：090-1767-9094(北区で子どもの遊ぶ場をつくる会)

*9月16日のワークショップが悪天候の場合は、9月23日(月・祝)に延期になります。

お申込み



QRコード

講師紹介

関戸 博樹 氏



プレイワーカーとして、子どもの遊び場づくりのコーディネーターや人材育成を主な仕事としている。NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会代表。大妻女子大学非常勤講師。2 児（8 歳男子、4 歳女子）の父でもあり長男の子育て時に 2 年間の主夫生活を経験。

著書として「子どもの放課後にかかわる人の Q&A50」（学文社・共著）。Web メディア「CONOBIE（コノビー）」や「NHK くうねるあそぶ」、「公園文化 web」などへのコラム寄稿、ベネッセ教育研究所の「あスコラ」で対談記事など。

プロジェクト紹介 ◆ 外遊び × 未来の人育てプロジェクト（2019 年度 北区政策提案協働事業）

若者の自己肯定感や自主性の低さが指摘されている今、「自由な遊びのなかで子どもはみずから育つ」「子どもの育ちを見守れる大人を増やす」を軸に、さまざまな対象者向けの講義・実践の場を企画しています。

2001 年からプレーパーク（冒険あそび場）を運営してきた「北区で子どもの遊ぶ場をつくる会」が 2018 年に政策提案し、採択された 3 か年の継続プロジェクトです。

2019 年度の企画

- ◆ 一般区民向け 汐見稔幸 氏（東京大学名誉教授）
「AI 時代を人間らしく生きる力を育む 一遊びの豊かさについて考えるー」 【10 月 14 日】
- ◆ 0・1・2 歳児の親向け 幾島博子 氏「親が困る時は、子どもが育つ時」 終了しました 【6/27、7/2 及び 5 日】
- ◆ 幼児～低学年の親向け 林希栄子 氏「遊びで育つ子どもの力」 【11 月 10 日 及び 24 日】
- ◆ 放課後に関わる大人向け 関戸博樹 氏「遊びと育ちを理解した子どもとの関わり方」 【9 月 8 日 及び 16 日】



アクセス 9/8（日）セミナー 北とぴあ 902 会議室

至 赤羽

三菱東京 UFJ 銀行
みずほ銀行
フロント
北とぴあ

JR 京浜東北線
王子
北口 3
バスロータリー
りそな銀行
北本通り

▶ 徒歩
JR 京浜東北線
王子駅下車北口より 2 分
地下鉄南北線
王子駅下車 5 番出口直結
都電荒川線
王子駅前駅より 5 分

9/16（月・祝）ワークショップ

中央公園拡張部・いなりプレーパーク

▶ 徒歩
JR 埼京線
十条駅より 15 分
JR 京浜東北線
東十条駅より 15 分

▶ バス
王子駅より国際興業バスにて南橋下車 1 分
コミュニティバス
中央図書館下車 1 分

至 赤羽
至 王子

東十条駅
JR 京浜東北線
中十条郵便局
中央公園拡張部 (旧いなり公園)
いなりプレーパーク
上十条郵便局
消防署
十条台小
十条富士見中
東京成徳大
自衛隊 十条駐屯地
中央公園
北区立中央図書館
別館
南橋バス停
十条台区民センター (障害者福祉センター併設)
北区役所

FAX 申込み用紙 送信先 03-3907-0357

切らずにそのまま送信してください

講座名 『遊びと育ちを理解した子どもとの関わり方』

講師 関戸 博樹 氏

氏名（ふりがな）

所属（雇用先）

勤務施設名（学校名等）

電話番号

親向け講座
11/10
(日)

親子で体験
11/24
(日)

参加者募集

コミュニケーション力

おにさんごすら〜

想像力



やる気



遊んで育つ子どもの力

体力

～子育てが楽になる見守りのコツ～

元気に遊ぶ子どもたち! 楽しいのはもちろん、実はたくさんの力が育まれる時間でもあります。この講座は“遊ぶことの価値”を伝え、また、子どもたちがよりたくさんの力を育ていけるように、大人の見守り方のコツをお伝えします。1回目の講座で学んだことを、2回目は実際に体験していただける企画です。保護者も子どもと、冒険あそび場(プレーパーク)で遊んでみましょう。遊ぶことの価値や楽しさを一緒に感じながら、大人の見守りのコツを「あー、こういうことか!!」と実感できます。

集中力



失敗から立ち直る力



主体性



喚起力



きやー



行動力



自己決定

開催概要 連続講座

- 1回目 親向け講座** 11月10日(日)
時間: 13時半~15時半
十条台区民センター 別館 2F 会議室
- 2回目 親子で体験** 11月24日(日)
時間: 13時半~15時半
中央公園拡張部(旧いなり公園)

*11月24日の体験日が悪天候の場合は、12月8日(日)に延期になります。

申し込み期間 10月1日(火)~10月25日(金)

申し込み方法 (裏面参照)

QRコード 右の申し込みQRコードより
Eメール kitaku.play+3teigaku@gmail.com
FAX 03-3907-0357

内容についての問い合わせ ▶ 090-1767-9094 (北区で子どもの遊ぶ場をつくる会)

講師 林 希栄子 氏

フリーランス・プレイワーカー

参加費 無料

対象者 区内在住で、幼児~小学生の保護者 30名(先着順)

保育 2歳~小学2年生(先着順 20名まで)
*保育は講座のみ

定員 30名

楽しみだー!!



申込みQR



講師紹介



林 希栄子 氏 フリーランス・プレイワーカー（保育士・幼稚園教諭一種）

高校2年の夏に保育園でのボランティアを機に、保育士をめざす。大妻女子大学在学中に冒険遊び場（プレーパーク）に出会い、ありのままを認める居場所の大切さに感銘を受ける。卒業後、「渋谷はるのおがわプレーパーク」に6年間勤務し、子どもの遊び場を地域の大人たちと共につくる醍醐味を味わう。現在はその経験を活かし、北区をはじめ首都圏近郊の遊び場づくり支援のほか、みちあそびイベント、とうきょうプレイデーキャンペーンなど幅広く活躍中。

アクセス

- 1回目** 11月10日（日）
講座会場 十条台区民センター 別館 2F 会議室
 （北区中十条 1-2-18）
- 2回目** 11月24日（日）
体験会場 中央公園拡張部（旧いなり公園）
 （北区十条台 1-2-5）中央図書館横

*11月24日の体験日が悪天候の場合は、12月8日（日）に延期になります。



プロジェクト紹介 ◆ 外遊び × 未来の子育てプロジェクト（2019年度 北区政策提案協働事業）

若者の自己肯定感や自主性の低さが指摘されている今、「自由な遊びのなかで子どもは自ら育つ」「子どもの育ちを見守れる大人を増やす」を軸に、さまざまな対象者向けの講義・実践の場を企画しています。2001年からプレーパーク（冒険あそび場）を運営してきた「北区で子どもの遊ぶ場をつくる会」が2018年に政策提案し、採択された3か年の継続プロジェクトです。

▼当会HP



2019年度の企画

- ◆ 一般区民向け 汐見稔幸氏
「AI時代を人間らしく生きる力を育むー遊びの豊かさの大切さについて考えるー」【10月14日】
- ◆ 0・1・2歳児の親向け 幾島博子氏「親が困る時は、子どもが育つ時」 終了しました 【6月27日、7月2日及び5日】
- ◆ 幼児～低学年の親向け 林希栄子氏「遊びで育つ子どもの力」 【11月10日及び24日】
- ◆ 放課後に関わる大人向け 関戸博樹氏「遊びと育ちを理解した子どもとの関わり方」 終了しました 【9月8日及び16日】

FAX 申込み用紙 送信先 03-3907-0357（北区で子どもの遊ぶ場をつくる会）

切らずにそのまま送信してください

講座名『遊びで育つ子どもの力』 講師 林 希栄子 氏

お名前 (ふりがな)

お子さんの年齢

どちらかに をしてください 区内在住 北区外 電話番号

講座（11/10）保育の希望（有・無） 有の場合 → 保育を希望するお子さんの名前（ふりがな）・年齢・性別・アレルギーなど特記事項があればご記入ください

名前（ふりがな） 年齢 性別 特記事項

名前（ふりがな） 年齢 性別 特記事項

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組み、今後の協働事業に役立てるために行います。

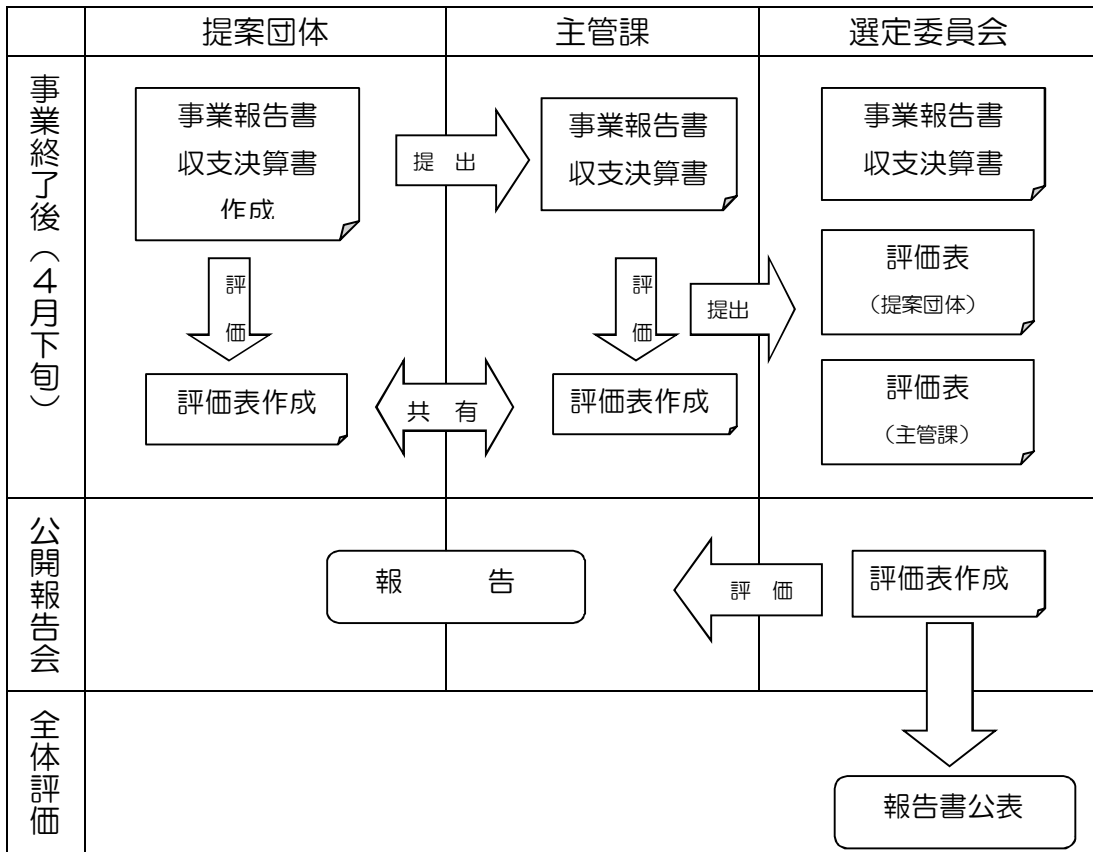
2. 事業の評価方法

協働事業の事業実施主体である団体と主管課がそれぞれ自己評価を行い、その内容を選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組み
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 事業の実施主体による自己評価

(1) 多文化共生キーパーソンの育成と継続可能な仕組み作り

【団体による自己評価】(特定非営利活動法人彩結び)

① 計画段階での取組みについて

・対象となるキーパーソンにやさしい日本語講座や先駆的な自治会の取組みを事前に学ぶ事で、自治会へ派遣された時に心構え含めスムーズに自治会の活動に参加できた。ただ、後半に募集し研修を受けたキーパーソンに関しては対象自治会がすでに活動を開始しているタイミングでのキーパーソン活動開始になり、スムーズな自治会への加入が若干難しいと感じたため、2年目以降はその点を加味し、キーパーソン研修の時期を前倒ししてスムーズな自治会活動への参加を狙いたい。

② 事業の進め方について

・定例会において、各自治会の進捗報告を行い、より目的を達成するために望ましい活動を話し合うことができた。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

・北区が保有している自治会の情報を教えてもらい、対象自治会の選定がスムーズにできた。

④ 協働事業の成果について

・事業①事業②は目標を達成できたが、事業③は開催ができなかった。未開催になってしまったが、別の形で今年度の事業活動を参加予定だった方に報告するなどして、関係性を深めていきたい。

⑤ 全体を通して

・事業③は開催ができなかった。未開催になってしまったが、別の形で今年度の事業活動を参加予定だった方に報告するなどして、関係性を深めていきたい。

【主管課による自己評価】(総務課)

① 計画段階での取組

・キーパーソンの募集、派遣対象とする町会・自治会の選定や受入にあたっての留意事項等、懸念されることを提案団体と予め意見交換を行うことができた。当初計画に沿って取り組んだものの、見直しをせざるを得ない部分もあった。
・本事業は、地域で活躍しているキーパーソンや、顕在化していないものも含めて地域が抱える課題を探するという、実態の把握が難しい内容であることから、計画当初に正確なスケジュールを見通すことは難しい。今後の事業実施にあた

ってのスケジュールや事業内容を柔軟に更新しながら、問題解決を図っていき
たい。

② 事業の進め方

- ・提案団体とは、定例会を活用し、進捗状況の確認と課題解決に向けた意見交換は十分に行うことができたが、事業の効果等が見極めが難しい事業であるため、事業は適宜見直しつつ、情報共有する必要があると考える。
- ・キーパーソンを派遣していくことになる町会・自治会に対し、事業への理解を深めていただけるよう、これまでの取組み事例を定期的に発信していく等、一層の働きかけによって、更なる事業の推進が可能であると考えられる。
- ・アイデアが豊富で活発な意見交換ができたが、関係者で共有することが難しい事業目的であるため、今後の事業の推進にあたっては、関係者間で継続的な関係が構築できるよう、留意していきたい。

③ 協働で取り組んだことによる効果

- ・キーパーソンは、中国語圏での駐在経験のある方や海外・日本国内での日本語教師経験者、国際交流機関での勤務経験のある方などがおり、区職員が募集するだけでは見つからなかった可能性がある。提案団体が区職員だけではわからない情報を把握し、ネットワークとつながっている強みが、事業に活かされているように感じられた。

④ 協働事業の成果

- ・初年度ということもあり、関係者の負担が特定時期になると集中してしまう様子があった。今後は、継続的な関係の構築に向けて、無理が生じないように留意していきたい。

⑤ 全体を通して

- ・新型コロナウイルスの感染状況による様々な影響が生じている。本事業の内容は対面コミュニケーションを前提としているため、テレビ会議やテレワークでどの程度代替できるのか、想定するのが難しい。今後の評価にあたっては、当初に設定する目的、内容、効果を柔軟に更新することに対して一定の配慮をしてほしい。

(2) 外遊び×未来の人育てプロジェクト

【団体による自己評価】（北区で子どもの遊ぶ場を作る会）

① 計画段階での取組みについて

- ・事業計画策定には、未来課、地域振興課の担当者の皆さんに相談に乗って頂

き、とても助かりました。わからないこともすぐに教えてもらえました。本会の場合、両担当課とは、地域づくり応援団事業や北区プレーパーク協働事業を通して意思疎通ができ、信頼関係もあったのが幸いでした。反省点としては、計画立案時、わくわく課も協働パートナーになるという認識が（本会側に）薄く、ご相談にあがる機会が少なかったのが反省です。

② 事業の進め方について

- ・事業がスタートし、わくわく課担当者とも相談や打合せ、情報共有できるようになり、安心して事業遂行に取り組みました。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- ・今回の事業は、講演会や講座中心であり、区民への周知や集客に行政のネットワークが必要不可欠でした。また、会場確保の面でも主管課は最大限の努力をして下さり、感謝の言葉しかない。講演会、講座は日曜や祝日開催が多かったのですが区の担当の方々は可能な限り参加して下さいました。かなりの無理を敷いていたことと思います。しかし、担当者の皆さんが実際に現場に足を運び、私たちと共に講師の話を聞き、考えを共有できたのは、双方に大きな学びとなったと思います。

④ 協働事業の成果について

・目的と成果

講演会や講座などのそれぞれのプログラムは参加者からの評価が高く、目的を達成できました。乳幼児など親向け講座に参加した方々が継続してプレーパークにきて、子どもの遊ぶ力を確認し、見守る姿勢を意識されています。放課後に関わる大人の中にも、子どもの遊びの本質を学び、職場スタッフと共有しつつ、現場の活動に活かそうとしています。大きな成果だと言えます。しかし、もともと当会が懸念する子どもにおこっている課題（子育てしにくさ、子どもが子どもらしく育ちにくい環境）を解決するには、まだ時間が必要です。解決するには、地域の人たちや、親を含めた子育てに関わる大人たちが、子どもの育ちに寛容になれることだと考えているからです。協働事業で実現した今回のような啓発活動を繰り返すことで、理解者を増やすのが重要だと考えています。

・費用

講演会、講座の本数と目的達成を考慮して十分な費用対効果だと考えます。例えば、比べることは適切ではないかもしれませんが、民間企業にこれらを委託した場合、この数倍の予算が必要になると思います。費用を抑え、成果を上げられたのは、区民と行政の協働事業の賜物だと思います。ただ、留意事項は、この協働事業によって本会の限りあるマンパワーが枯渇しないよう、仲間を集め、作業を分散させ、全体のチームワークバランスを整えることです。

⑤ 全体を通して

・協働するということ

協働事業を募集する前に、区や区民が抱える課題を行政と区民で考えるような場があり、課題の抽出や解決手法、取り組む優先順位を検討する場があると良いかと思いました。それにより、行政と区民がより一体となって課題（急ぐべき）に取り組めると思いました。

【主管課による自己評価】（子ども未来課・子どもわくわく課）

① 計画段階での取組

・令和2年度は、より区側の連携を図るために、いま一度、両課で事業目的や事業の流れを共有する必要があると考える。また、定例会以外にも必要に応じて打ち合わせを行い、協働団体との連携を図っていききたい。

② 事業の進め方

・こまめに意見交換をしながら準備することができた。区側と団体が互いの役割を認識し、気が付いた点について率直に意見を言い合うことができた。結果として1+1=2以上の成果を達成できた。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

・区の課題について協働で議論できたことは、同じ目的を見据えながら活動する上で効果があったと考える。また、協働で広報活動をするにより、参加を促したい層へもれなく周知することができた。

④ 協働事業の成果

・当初設定した事業目的を達成するために必要な事業をおおむね実施できた。参加者からも、新たに考え方を習得できたという感想が多数聞かれており、実施効果があったことが伺える。一方で参加者に事業の目的を理解していただき、また、参加した成果を実感していただけるよう、より工夫が必要だと感じた。今後も継続して事業を実施し、子どもの育ちについてより柔軟に考えることのできる大人を増やしていけると良いと考える。

6. 選定委員会による評価（個々の選定委員のコメントの抜粋）

（1）多文化共生キーパーソンの育成と継続可能な仕組み作り

① 計画段階での取組みについて

・外国人、特にアジア人が多くなり、言葉も通じない住民の不安解消の一助になる計画だと思う。

・今世界がグローバル化している社会で、北区が取り組んでいる事業に合致し

ている。

・外国人と交流を図ることは大変良い。町会だけでは計画通り実施はできないので、そのため地元大学生と協力、話し合いをもって実現に向けての取り組んでほしい。

・北区民に対する広報がいまいち、認知度未だ少ない。

・北区多文化共生指針に基づく計画であった。

・自治会などの地域団体とコミュニケーションをとることによって地域のダイバーシティに対する課題を理解することにつながった。行政と地域団体との連携を計画段階から構築することができた。

・申請時の計画からの修正は行われたものの、事業の当初計画の曖昧さがあった。

② 事業の進め方について

・ごみ問題、騒音問題等が少なくなることを期待。

・町会・自治会の選定に困難があったと思う。需要とする地域がどこなのか掘り起こしが課題。

・常に話し合いをしながら事業に対しての取り組みを考え実施するか進めている。ごみの出し方、防災対策、町会紹介、しっかりと実施されている。

・当初、実効性に欠けているように感じたが、区や地域と連携・協力して効果的な事業展開が図られたと考える。

・団体・主管課共に、当初の計画を変更せざるを得ないという認識を持っているが、その捉え方に若干の乖離がある様に感じる。今後、この点について双方のすり合わせが重要になる。

・事業①「キーパーソン研修」の実施により、7名のキーパーソンの育成が出来たことにより、事業②「キーパーソン派遣事業」の3地区実施につながったのは、大きな成果。新型コロナウイルスの影響で、事業③交流会事業ができなかったことは残念。

・定住外国人の生活支援をしていくことは公共の課題と言えるが、その解決には地域住民の理解と協力が不可欠である。文化の異なる人々が関係を築いていくためにインターメディアリーな人材は求められている。

・事業計画の曖昧さから事業開始が遅れたと思われ、第1四半期と第2四半期で合わせて683,811円の未執行金を生んでしまった。COVID-19による影響を受けて第4四半期予定の事業を実施できなかったが、当該事業予算：312,000円>戻入金額：127,043円であり、予算執行の計画実施の課題があることが伺える。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- ・区役所よりも気軽に相談できるキーパーソンになってもらいたい。
- ・異国のの人達と共生する努力がみえる。色々な団体、個人、町会等と協力する事で色々な意見が出る事で効果が出る。
- ・若い世代の方々を取り込みながら、協働事業として相応しい姿を創造できたと思う。
- ・難しい課題であり、協働による効果が活かされる事業だと思う。
- ・今後の地域課題の顕在化につながったのではないかと。地域でできる外国人への支援のあり方を考えることができた。事業者と行政のコミュニケーションが連携に結びついたと考えられる。
- ・協働によるメリットを団体・区双方が認めており、今後の活動に活かしていきたい。区側も市民団体が持つポテンシャルを活かした行政運営をさらに進めていくことが望まれる。

④ 協働事業の成果について

- ・全てにイえる事だが「新型コロナウイルス」の影響を特に受けていると感じる。(コミュニケーションが大事な事業だから)
- ・予算に対して、事業目的達成効果もう少し。頑張っている。外国人に対する防災対策、今まで以上に取り組んでほしい。
- ・本件事業は、道半ばと考える。継続性や発展性をもって、取組みを重ねていくべきである。
- ・計画の見直しと課題および活動について、団体と主管課並びに地域振興課との協議が再度必要。
- ・計画していた事業はできたが、地域と在住外国人が十分なコミュニケーションが取れるところまでは至っていない。
- ・団体側は、協働の意義について区側よりもスコア的には高く評価している傾向がある。団体側の持つ協働の課題意識をより明確にして、区とのさらに深い連携を進められるとよい。

⑤ 将来性

- ・外国人の方でも100%自治会に入ってもらいたい。
- ・今後北区でも外国人が増えていく事が予想される中、多文化共生キーパーソン事業は必要であり、広める必要がある。
- ・スタッフの根気次第である。熱心なスタッフを育成することに力を注いでいただきたい。
- ・北区において外国人の居住者はますます増加することは間違いないと思うので、地域におけるダイバーシティを目指し住民の課題解決や交流促進など、活動に対する期待は大きい。

・極めて重要な課題解決のプロセスであり、組織強化に努め持続的な活動を続けていただきたい。確保したキーパーソンの継続育成と人材のさらなる確保に取り組んでいただきたい。

(2) 外遊び×未来の人育てプロジェクト

① 計画段階での取組みについて

- ・今の子供達は、自然と親しく遊べる場所もなく、大変良い企画だと思っております。
- ・3回の講演ともに参加者中9割の方が満足しており、この事業を通して遊び方を覚えるのは大変親子にとって良い。
- ・事業計画を実施する上で明確に役割分担出来ていた。
- ・プレーパークを契機に事業が充実してきた。経験を重ねながら発展を遂げた団体である。
- ・子どもの貧困や子育てに悩む親の孤立化、子ども同士のコミュニケーション不足など、子供を取り巻く環境整備は大きな課題であり、遊びを通じて交流を広めることは重要である。
- ・計画通りに毎回の講座を開催し、集客や講座毎の分析もしっかりなされている。団体・区の役割分担を双方が、積極的に考えながら事業実施しようとしている点が評価できる。

② 事業の進め方について

- ・対等な立場での意見交換は計画、実施段階、いずれも出来たようだ。
- ・AI時代が進む中、これから世の中がどう変化し、これからの人生を考える講演に若い親が多く参加してくれたのは良かった。
- ・計画性のある取組みであり、区との協力関係は構築できている。
- ・子どもの育成支援に取り組んできた団体の経験を活かした計画に基づく事業を行うことができた。現場で培ってきた経験が講座の企画にも反映されたものとなった。
- ・第1四半期・第2四半期で662,022円の未執行金額があり、事業開始時の計画立案上のテクニカルな課題があると思われる。一方、費目毎の予算と決算の不一致が散見される。予算と決算の差額は、謝金：236,304円、人件費：140,800円、委託料：202,909円の超過執行となっているなど、事業計画を詰める上での課題が感じられる。

③ 協働で取り組んだことによる効果について

- ・協働する事で相手の気持ち、考え方もわかり信頼関係ができ、一の力が二、三にもなり効果が上がる。日曜日、祝日開催は有効。
- ・子育てや教育に熱心な区民が区と共通認識を持って取り組んでいたと考える。

- ・本事業を通じて、団体と主管課の新たな関係性が出来つつあり、有意義だと感じる。
- ・従来よりあった協力関係がより強いものとなった。行政だけでは難しい課題に柔軟に取り組むことができた。
- ・団体、区側双方の事業実施を通じた相互信頼の深まりを感じさせられる内容であった。毎回の講座で多くの来場者を集め、アンケートなどしっかりとした分析を毎回実施していることは、素晴らしい。

④ 協働事業の成果について

- ・一定の実施効果はあったようだが、より進んだ工夫が必要。
- ・児童館、子どもセンターにも協力してもらい、参加者も多く目的はある程度達成された。実施した事業にしっかりと自己反省が出来ている。
- ・著名な講師を招いての事業は素晴らしいと思うが、課題や反省点があれば次年度に向けて明記してほしい。
- ・本来の目標達成に向けては、今後の活動の内容や実行力に求められるものが大きい。
- ・課題の性格から継続的な実施が必要である。今後のさらなる事業発展が期待される。

⑤ 将来性

- ・区側と十分に協議し、自然の残る公園を提供してもらいたい。
- ・最近、子育てが難しいと感じる親が多く、子供と親の関係を深めるのに良い事業である。
- ・区内での事業展開に持続力がうかがえる。スタッフの増強を期待したい。
- ・協働事業が終了した後も、団体独自の事業として、継続していくことを期待したい。
- ・子どもの主体性を育てる教育は学校だけでは困難であり、地域住民が協力して地域ぐるみで子どもを育てることが重要となる。子育てに関わる人々が学ぶ機会を提供することは大きなニーズであると言える。
- ・講演会という手法で大きな成果を出している。インターネットの活動など事業効果をさらに挙げる手法も期待される。

令和元年度 北区政策提案協働事業報告書

令和3年1月6日発行

刊行物登録番号

01-1-104

東京都北区地域振興部地域振興課
発行 東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)